

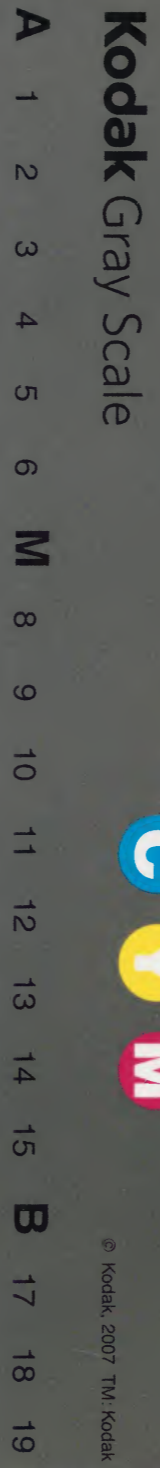
愚得隨筆

九七  
十八

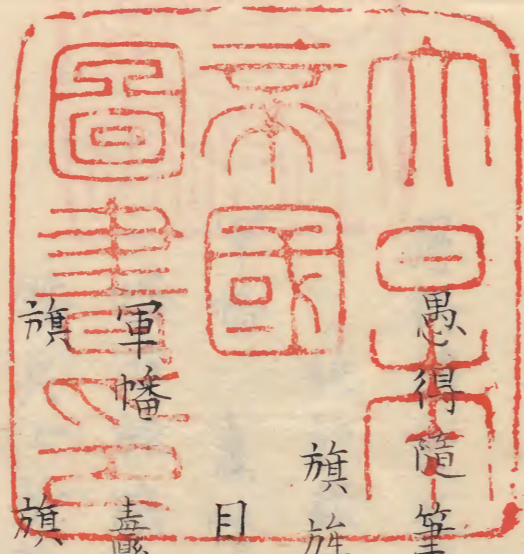
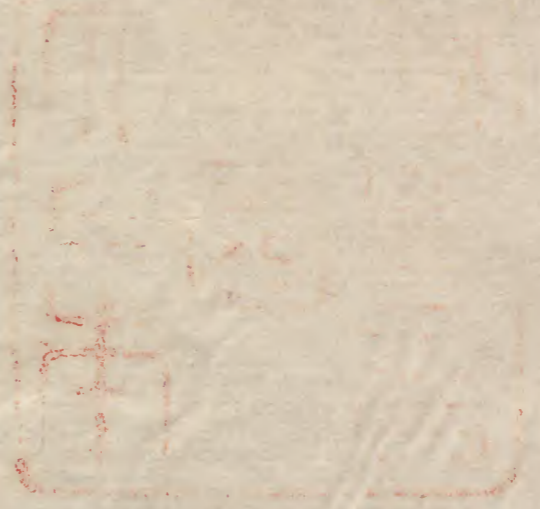
和書門			
二	七	二	五
九	一	二	
四	七	一	二
冊	架	函	號

內閣文庫			
二	七	二	五
九	一	二	
四	七	一	二
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 27252
冊數	4 ( 3 )
函號	154 10







愚得隨筆卷七

旗旌類

目錄

軍幡  
嘉幡

旗  
旗袋

乃保利

圓居

馬驗

腰小旗

指物

笠標



隊幡  
納旗

旗紋  
橫上

竿付

旗差



明治十二年購求



弓印  
保侶  
母衣袋



愚得隨筆卷七

旌旗類

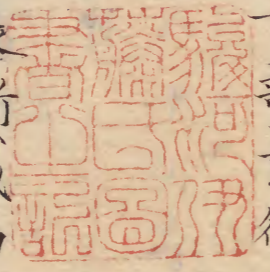
軍幡 纛幡 隊幡 鉞旗

幡者旌旗摠名也將軍所載曰纛幡隊長所載曰隊幡兵士所載軍幡也 今義解

○古ニハ凡兵士五人ヲ伍トシ五十人ヲ隊トス將帥ノ出征ス時ニ兵一万人以上ニミツルニハ將軍一人副將軍二人軍監二人軍曹四人録事四人五千人以上ニハ副將軍軍監一人ト録事二人ヲ減ズカク兵ノ多少ニヨリテ副將軍ヨリ下軍



下部景衡集







鮫旗

監軍曹録事等ノ員ハヒトシカラ子ド必ず將軍一人アリテ其軍ノ政ヲ司トル其將軍ノ上ニ又大將軍アリテ彼三軍ノ命ヲ司トレリ一軍ノ將ノ載ル所ヲ纛幡トイヒ兵士ノ旗ヲハ軍幡トイヘル也

○鮫旗

日本書紀齋朔

釋日本紀曰私說未詳師後

說云今現在此旗之頭如鮫

○旌旗ハタ錯乱ミダシ則士卒不整イラサヒトス

日本書紀神功皇后紀

旗

旗袋

旗紋

横上ヨコウミ

竿付

旗差

愚按上古ノ旗ハ近世ノコトリ乳付ハナリ哥連付ノ旗ナリ

白旗

○源義家朝臣白旗一流長八尺九寸幅一尺六分ノ紺三幅横上ニ八幡大菩薩ソノ下ニ二ツ引アリ三尺中ニテ割り菖蒲草ニテ菊トナ在八幡山神室

白旗

○源義家朝臣白旗一流地白布二幅長九尺二寸幅一尺七寸横上ニ八幡大菩薩下ニ二ツ引アリ旗袋ニ入新田宮内少家藏ナリシヲ今ハ洛陽田中某所持セリ



旗袋

○旗袋其制表赤地和錦小亀甲ノ文裏白生絹幅六寸一折返ニ寸長二尺八寸五分首尾ニ四寸五分置テ狩衣ノ袖ノコトク打紐アリ 右同人藏

○奥州恭衡日比奥州ヲ陰容スル己ニ叛逆ニスガル也仍テ是ヲ征センタメ發向セシメ給フヘキ間御旗一流可調進由常胤ニ仰ラル縮ハ朝政召ニヨツテ献之 東鑑

旗長

○千葉今常胤新調ノ御旗ヲ献ス其長入道將軍家頼義御旗寸法ニマカス一丈二尺二幅也又白

糸ノ縫物上ノ方ニアリ伊勢大神宮八幡大菩薩下ニ鳩ニ羽ヲ相對スト云々 東鑑

赤旗

○平家赤旗一流幅ニ布長三尺五分アリ九万八千軍神卜書付アリ 鎌倉補陀落寺藏

錦御旗

○將軍ノ御坐船ハ錦ノ御旗ニ日ヲ出シテ天照



太神八幡大菩薩ヲ金ノ文字ニ打テ附ラレケル  
八日ニ耀キテキラメキタリシ手ヲ解テ浦風ニ  
翻シ 梅松論

錦御旗

○一宮中務親王五百餘騎ニテ三條河原へ打出  
サセ給タルニ内裏ヨリ下サレタル錦ノ御旗ヲ  
指上ケタルニ俄ニ風烈リ吹テ金銀ニテ打テ付  
タル日月ノ御紋キレテ地ニ落タリケルソ不思  
儀ナル 太平記節度使下向

白旗

○或書云白旗征夷將軍朝敵追討ノ夕メ鎮守府  
將軍ニサレソへ下ス旗也家ノ紋ナシ手長白旗

白旗  
錦旗ト  
糸ス

ト云將軍ヨリ外ニハ是ナシ赤時ハ赤旗ト云朝  
敵御退治ノ時ハ一番錦御旗二番白旗三番御紋旗三  
流也旗ハ軍神ノ運天ヲ勸請シ其家ヲ守護セシ  
メ給也然ハ家ノ紋ヲアラハシ大將軍ノ前ニタ  
ツル魔神ニオカサレズ障礙ヲナスコアルヘカ  
ラス又諸軍ニシラシメシル也イサカカ  
ロソカニスヘカラス 白旗ノ一錦御旗ト号ス是  
天子御旗也 謠抄

○義貞記ノ内旗ハ絹布人ノ好ニ家ノ先規ニ可  
依歛長ハ八尺或ハ一丈又ハ一丈餘神ノ御名又



家ノ文ハカリモ旗ノ竿ハ長一丈二尺或ハ二尋  
片脇トモ云ヘリ 體源抄

○旗紋 愚按將軍ノ外ハ紋ヲ出又姓名ヲモ  
書シナリ

○宇津宮ヲタシメ給フ処佐竹四郎常陸國ヨ  
リ追テ参シ加ル佐竹持シムル所ノ旗無文白旗也  
ニ品トカメシメ給フ御旗トヒトシカルヘカラ  
サルユヘ也仍テ御扇ヲ 出月 佐竹ニ給ル旗ノ上  
ニ付ヘキヨシ被仰佐竹御旨ニシタガフ 東鑑  
○去ル夜旗ヲマイラスル輩御所ニ召アツメ武

旗紋

州對面シ給フ各異儀ヲ存セズ旗ヲマ儼ラスル  
一神妙也但ソノ由緒ナク騷動向後固ク可慎云  
旗ハ紋ニマカセ返シ被下 東鑑

○橘薩摩十郎公義五ツ石疊文ノ旗 東鑑  
○兒玉黨ノ團扇ノ旗 盛衰記

○兵衛佐治兼ノ謀叛ノ時昌俊ニ文字ニ結ビ雁  
ノ旗ヲ給リタリ 盛衰記

○鏡右衛門尉久綱此所ニ留リカハツテ姓名ヲ  
旗ノ面ニシルニ高岸ニ立置 東鑑

○汝カ旗ノ餘リニトリカヘモナク似タルニ是

旗文

同



横上

ヲ押トテ藍皮一文ヲ賜下シ給ヘリソレヨリ畠  
山カ旗ノ注ニハ小紋ノ藍皮ヲ押ケル也 盛衰記  
畠山推参  
○ニヤクウウジノ御正躰ヲ舟ニノセ参ラセ旗  
ノヨコカニニハ金剛童子ヲカキマテマツリ

平家  
物語

竿付緒

○主モナキ白旗一流マヒサガリテ源氏ノ舟ノ  
ヘニサホ付ノヲノサハル程ニソミヘケル 平家  
物語

横上

○相摸國石橋山ニ陣ス此間件ノ令旨ヲ以テ御  
旗ノ横上ニ付ラレ中四郎惟重持之 東鑑

旗竿

○馬ノ腹帯強クシメテ手綱打カケク旗竿尻引

蟬本

ソバメ熊手薙鎌手々ニサ、ケ曹ヲ前ニ置テ主  
人アトスハ、即等サト出ヘキ躰也 盛衰記

○蟬本白クシタル青竹ノ旗竿アリサレバコソ  
船ノ上ヨリ錦ノ御旗ヲ給タリト聞ヘシカ實ナ  
リ 太平記筑紫合戦

旗竿

○工ニモ井コホレ庭ニモヒシトナミ井タリ  
旗竿尻引ソハメ、馬ノハルビヲカクメ曹ノヲ  
ヲシメテ 平家物語

御旗竿  
出入

○御旗竿出時ハセミロヲ先ヘナシテ又内ヘ入  
ル時ハ本ヲ入ル惣テ武具ヲハ敵ノ方ヘ弭切先



旗差

ヲ向テオクヘシ 三儀一統

○旗差 上古ハ名字アル者役セシナリ

參河守範頼為平家追討使西海ニ赴ク午冠進發

旗差<sup>之旗卷</sup> 一人弓袋一人 東鑑

旗差

○旗差ハ秋野摺リタル直岳ニ洗革ノ鎧著 盛衰記

同

○旗差ハキチシノヒタ、レニ小サクラヲ黄ニ

返シタル鎧キチ黄河原毛ナル馬ニ乗 平家物語

同

○旗指ハ黒糸威ノ鎧ニ三枚曹ヲ著タリ 盛衰記

白旗赤旗  
水色旗

○或云白旗赤旗ト云フ源氏マツ白旗ヲ用ヒラ  
レタリ經基<sup>ノノキミ</sup>王ノ比ニ始レル歟其後平家赤旗ヲ

用ユソノ比源平兩家タガヒニ軍事ヲウケ給ハ  
レルガ故ニ雄ヲアラソフノ心ナキニシモアラ  
ズサレハ源家ノ白旗ハ金ノ方色ナレハ南方火  
色ノ赤旗ヲ用ユルト火剌金ノ義ト見ヘタリ源  
氏衰へ平家盛ニナリシニ源氏ハタゞ頼政ノ一  
派ノミ残リシカバ頼政ノ家ニハ水色ヲ用ヒラ  
レタリコレ水剌火ノ義ニトレリト見ヘタリト  
云此事諸家ノ公家衆ニタヅ子問シニサヤウノ  
事據トスベキ文書サラニナシ其理ナシトイヒ  
カタシ若クハサヤウノ義ニトレル事モレルベ



カラズト答へ給レト云白石先生聞給ヒテ盛衰  
記坂東落書ノ下ニ八幡殿ノ家捧<sub>ニ</sub>白色<sub>ニ</sub>白則金性  
也刑部殿之家捧<sub>ニ</sub>黒色<sub>ニ</sub>黒則水性也水与金和合持<sub>ニ</sub>長  
生<sub>ニ</sub>相也ト見ヘタリサラハ其比ヨリ旌旗ノ色五  
方ノ色ヲ取り用ヒシ事ソノ義アルニ似タリ前  
人ノ傳ヘシ所カナラスシモ據ナシ凡云ヘカラ  
ス云

○景虎憲政ヲ迎へ取テ大ニ悦ビ御敵退治相違  
在間敷ト申ス聽テ契約在テ上州一國憲政隱居  
分ニ其外ハ手柄次第可切取トノ約束ニテ則上

杉ノ系圖弁重代ノ御所作ノ御太刀天子ノ御旗  
等景虎ニ被讓御旗ハ錦ニテ一本ハ御門ノ御自

筆ニ見附考

キハコフルヤエタツタモノハタノ 俾振海中雲之幡之<sub>テ</sub>手仁東塵於拂秋風

亦二本ニハ一本ニ龍在リ

見附考 天子旌旗勢如飛作活龍高擡頭角處雲自八垠從

亦一本ニ虎在リ

見附考 六韜紙<sub>レ</sub>瓜傳<sub>ヘ</sub>三畧弄<sub>テ</sub>牙全弥<sub>レ</sub>猛西山白清風未嘯先<sub>ッ</sub>

此三本并<sub>ニ</sub>篠ニ飛雀之幕ヲ被<sub>下</sub> 小田原記

○藥師寺次郎左衛門公義ハ自餘ノ幣ニ紛レシ



旗袋

ト絹三幅ヲ長サ五尺ニ縫合セテ兩方ニ赤キ手  
ヲ著タル旗ヲシテ差タリケル 太平記  
小清水合戦

○此旗ヲサ、ケテ山徒ヲ御退治候ヘトテ錦ノ  
袋ニ入ナカラ自、是ヲマイラセラル 太平記  
殿上洛  
足利

○鎌倉若宮ニ八幡殿後三年軍ノ時願書ニ添テ

コノラレシニ引兩ノ御旗アリ錦ノ袋ニ入ラレ

タリ 太平記  
新田  
足利  
確執

○元弘三年十月先東ノ奥ヲシヅメラルベシト

テ参議右近中將頭家卿ヲ陸奥守ニナシ遣サル

代々和漢ノ舊古ヲ業トシテ朝端ニ仕へ政務ニ

旗銘

マジハル道ヲノミコソ學ビ侍リシ吏途ノ方ニ

モ習ハズ武勇ノ藝ニモタヅサハラヌ事ナレバ

イナミ申シカモ公家既ニ一統シヌ文武ノ道ニツ

ナルヘカラス昔ノ皇子皇孫モシハ執政大臣ノ

子孫ノミユソ多クハ軍ニモサシ、カ今ヨリ

武ヲカ子テ藩屏タルベシト仰給テ御ミヅカラ

旗ノ銘ヲカ、シメ給ヒサマ、ノ兵器下シ給ル

任國ニオモムク事モ絶テ久シク成ニシカハ古キ

例ヲ尋テ罷申ノ儀アリ 神皇正統記

○文治五年九月廿日小山下野大丞政光入道邸



旗銘

等保志黒次郎永代六次池次郎等同賜旗弓袋依  
勲功之賞下賜之由所被加銘也盛時書之 東鑑

横上

蟬口

○頼尚ハ旗ノ横紙ニアヤ井笠ヲ附夕リ是ハ御  
眷屬御靈影向アリテ蟬口ニ御坐ノ故ニ昔ヨリ  
當家ノ庭訓ナリ 梅松論

○太上法皇ノ院宣ヲ被下夕リ錦ノ袋ニ納テ御  
旗ノ頭ニ挾之給ヘリ 盛衰記石橋  
山合戦

白色

○爰尋其先蹤者八幡殿之家捧白色白則金性也  
刑部殿之家捧黒色黒則水性也水与金和合持長  
生之相也 盛衰記坂  
東落書

白旗  
錦旗  
稱ス

○白旗一流地練給 今ハ古リテ 長サ一丈幅一尺  
三寸五分横上ニ上ヨリ八寸五分下ニ日ノ丸ア  
リ大サ徑九寸縁一分計赤ク輪ヲ出シ内ニハ金  
箔ヲ押シ夕リ其下六寸五分ヲキテニツ引兩ア  
リ大サ共ニ五寸間白キ所四寸五分其下真中ニ  
摩利支尊天右ニ八幡大菩薩左ニ愛宕山權現三  
行ニ神名アリ旗長サ今存スル所一丈モトハ何  
程アリシニヤ切レ失シ躰也其家ニ傳ルハ天子  
ヨリ賜ヒシ錦ノ御旗ト云フ其子孫山名因幡守  
千今承ケ傳ヘテ所持也



大旗

○大旗腰小旗皆押並テ白カリケリ

喉元平治物語

同  
下濃旗

○坂東坂西藤橘伴ノ者共五百騎ツ、一揆結テ大旗小旗下濃旗三流 太平記

錦旗

○宮げおもと思石日月代金銀少テ打てる錦旗と

早瀬の彦司おとけり 太平記大塔宮 熊野落

同

○城中と屹と向とけせハ流の内旗お日月と金銀少テ

打てる多々白小耀て光玉後リ 太平記 笠置軍

同

○主上未船上ハ色有リ時不或入乃妙慧大徳入乃具簡番池入乃家阿之人回ヤテ色多可多色とヤハ  
ヨヨ則輪者小錦の内旗を割てをけり 太平記 紫合殿

旗文

○船よふ馳系を多居と致因仕系長年一旗名和七身  
と云け者武勇の謀又けせハ白布ある瑞有けると旗子  
こしらハ和の多武境で標ふあす一近所の如き此家々乃  
久と書てその本此が彼の家あそ多置ける 太平記先帝 舟上臨筆

手長旗

○手長旗トハ征夷將軍ノサシ玉フ旗也其外鎮  
守府將軍ヨリ外ハ不刺也凶賊成敗仕給フ時將  
軍ヨリ此旗ヲ給テ指故ニ手長旗ト云家ノ故不  
書故ニ手長白旗ト云也 見附考 何色ニテモ神名家紋ナ  
キヲ白旗ト云綾羅精好ニテ二幅押合セ左右ヨ  
リノ糸以テ二通可紵鳩居ヲハ紫皮ニテ縫クル



ム也鳩居横手ハ竹ト南天ニテ弓ノコトク合ス  
ベシ山井武鑑 哲藻著

乃保利

愚按今ノノボリハ康正ノ比ヨリ始レリソレヨ  
リシテムカシ旗ハ森林ニカ、リテ悪敷トテス  
ヘテ近世乳付ノ乃保利ニナレリ又武田信玄ノ  
エ夫ニテ乳ヲヤメテ袋ニセシモアルナリ

○後花園院御宇義政將軍ノ時康正二年ノ復畠  
山政長將軍ノ命ヲ背ク同各義就ツハモノヲ催  
シ河内ノ國ニムカニ萱振ニオ井テ合戦政長義  
就一家タルニヨリ旗色同シ味方ワカチカキ  
エハニ政長ノホリヲツクル是本朝ノボリノ始



十リ 南朝紀傳

○或云近世ノボリヲ仕立ルニ乳ヲ付ル所ニ  
如此縫ハ口ニ从ヒ十ニ从フ則叶ノ字也又如此  
縫ハ木火土金水ノ五行也則五行ト云也俗ニ清  
明ノ別ト云アヤマレリ 陣如縫ハ五横四豎則  
九字文臨兵鬪者皆陣列在前是也

九字

○抱朴子ニ入山宜知六甲秘祝曰臨兵鬪者皆  
陣列前行凡九字常密祝之無所不避要道不煩此  
之謂也トアリ今世ニ所謂九字ハ行人字ヲ除キ  
前ノ字ノ上ニ在ノ字ヲ加ヘタリ是道士ノ邪法

乳長

ニテ佛道ニアラズ

○ノホリノ乳ノ長サ四寸折返シテノ一也合テ  
八寸也ニツニ折クケテ重テ切上ノ乳ヲ竹ノ本  
ヨリ順ニ付ノボル也 大諸礼

招

○城中ノ旗ノ招ト味方ノマ子キト結ヒチガフ  
ルヤウニナン見ヘケリ 太閤記

○河内清の戦より 令指多の孫あは 旗の事載あり 其疾  
如風とあり 不勤如いよ ありて 四言四句を 黒地小金  
とて 題す 四方の 旗ありと 多し 案より 未書ふ 此圖を 出せ  
る 但し 夫と 天下の 語を 在 四句 ありて 旗一 句と す 夫れ

武田家孫子旗



天正元年三月ありと云へり是説未決疑予有故孫子の  
旗と摸<sup>ハク</sup>せざるを物同すふ四句とて旗一ツの頭すの北<sup>キ</sup>ノ  
一画とて一竿とて大文字不記之其象<sup>シ</sup>ハ四方飛出の長  
あり其製練絹二幅にして長一丈斗地ハ赤根小文字成  
白く<sup>タマシク</sup>す<sup>タマシク</sup>不<sup>タマシク</sup>帥如<sup>タマシク</sup>山と名能也<sup>私<sup>シ</sup>其處と</sup>不<sup>タマシク</sup>語不可<sup>タマシク</sup>疑者<sup>不<sup>タマシク</sup>語不可<sup>タマシク</sup>疑者</sup>是以考ふ  
の本<sup>タマシク</sup>書筆<sup>タマシク</sup>濫及<sup>タマシク</sup>ひ未<sup>タマシク</sup>著<sup>タマシク</sup>して四句とて一<sup>タマシク</sup>画<sup>タマシク</sup>記<sup>タマシク</sup>すと<sup>タマシク</sup>あり  
皆<sup>タマシク</sup>誤<sup>タマシク</sup>謬<sup>タマシク</sup>なるん<sup>タマシク</sup>歟<sup>タマシク</sup>但<sup>タマシク</sup>し<sup>タマシク</sup>根<sup>タマシク</sup>本<sup>タマシク</sup>一<sup>タマシク</sup>画<sup>タマシク</sup>ありと<sup>タマシク</sup>天上<sup>タマシク</sup>天下<sup>タマシク</sup>の<sup>タマシク</sup>句  
と添<sup>タマシク</sup>て<sup>タマシク</sup>六<sup>タマシク</sup>中<sup>タマシク</sup>と<sup>タマシク</sup>な<sup>タマシク</sup>す<sup>タマシク</sup>カ<sup>タマシク</sup> 甲陽軍鑑辨疑

圓<sup>マト</sup>居<sup>ハ</sup>

近代ノ物ナリ

○本間江州今夜夜軍ノ目アカシ也ト名乗テ大  
道寺ト出合本間江州ヲウツテ此サレ物ヲ北条  
家ノアラン限ハサレ給ヘト申テウタル、時ノ  
イヒ置也敵ナレ氏大剛ノ者ノ詞ナレハ今ニ至  
ルマテ北条家ノ大道寺九ツ挑燈ヲ金ニシテ持  
スル也是ニヨツテ小マトヒハ北条家ヨリハシ  
マルト云ク 甲陽軍鑑







トヤ思ヒケン我先ニトミタレ味方勝ニナル其  
吉例ニヨツテ右ノ御旗御馬印ニ用ヒ給フ永祿  
六年卯月ヨリ御馬印金ノ扇ニナサルナリ

武者物  
詰抄

○末森城主奥村助右衛門尉兩通感狀并將碁ノ  
馬印ヲ頂載致シツル事モ此城預シ翌日ヨリ普  
請等油断ナカリシ故也 太閤記

○丹羽五郎左衛門長秀スハク時ハ今ナリ惣カ  
カリニカ、レヤ者共ト金ノ馬印フラヒドツトカ  
カリシ

太閤記志  
津嶽城攻

○金ノ扇ノ馬驗峯ワキヨリ朝日ノ出ルカ如ク  
押上タリ扱ハ徳川殿是ニマシケルヨト諸  
人見オドロキウシ口足ヲフミ裏クヅレス 池田記

勝入  
お死

○一番貝ニ先勢ハヤ出シカハ御馬驗フクベラ

庭前ニオシ立給ヘリ 太閤記秀吉御依池田  
父子討死御出馬

○柴田勝家馬印五幣 同記  
忠死 乞受勝助



腰小旗 指物  
愚按指物トイフハ幣カカヤシ或ハ挑灯ノ類ノ  
道具ヲイフ小旗ヲ指物ニセシヲハ腰小旗ナド  
イヒシ北条五代記ニ千葉勘兵衛トイフカチ立  
ノ者腰小旗ヲサシ鎗ヲ持セ諸人ニハシリヌケ  
ス、ム敵馬上ニテツキ落シ頸取テホマレヲエ  
タリ其後ゴヘイノサシ物シタル木下源藏先ダ  
ツ敵ヲ目カケタ、一騎ハセアハセ太刀打スト  
アレバ腰小旗指物ト名目アリト見タリシカレ  
凡言葉ノウツリテスベテ指物トイヒシナリ

腰小旗 指物  
愚按指物トイフハ幣カカヤシ或ハ挑灯ノ類ノ  
道具ヲイフ小旗ヲ指物ニセシヲハ腰小旗ナド  
イヒシ北条五代記ニ千葉勘兵衛トイフカチ立  
ノ者腰小旗ヲサシ鎗ヲ持セ諸人ニハシリヌケ  
ス、ム敵馬上ニテツキ落シ頸取テホマレヲエ  
タリ其後ゴヘイノサシ物シタル木下源藏先ダ  
ツ敵ヲ目カケタ、一騎ハセアハセ太刀打スト  
アレバ腰小旗指物ト名目アリト見タリシカレ  
凡言葉ノウツリテスベテ指物トイヒシナリ



四半

○小旗或ハ乃保利細長クシテ乳ヲ付シ也

○四半ヲ夕トヘハ横幅ニ尺アレハ豎三尺ノカ

子ツモリ也是ヲ四半ト云何尺ニテモ此ツモリ

ニテ大サ人ノ好ニヨルヘシ

○志奈比 横手ヲ入レス豎斗ニ竿ヲ入タルノ

ホリナリ

折掛

○折掛 シナヒヲ三分ニハ竿ニ入三分一ハ残

シテ縮ヲ折カケ残シタル也

ナヒキ

○奈比幾 竿ヲタメテ乃保利ヲ入タルナリ

ハレン

○葉礼年 シナヒヲ切割タルナリ

エル

○柄弦 竿ニ枝ヲ付ソレニ短尺角取紙ノ類ヲ

付ソノモノノヨリテ短尺柄弦ナト云ナリ

吹流

○吹流 或彎行或ハ野禰トイフ半月ノコトク

竹ヲタメテソレニ縮ヲ張ルナリ

吹貫

○吹貫 丸キ輪ニ縮ヲ張シナリ

○或云武功ノ士ニ免許セラレテ家ノ規模トセ

ル指物所謂磔ハシケ香車塔婆五輪酒林猪サカ枯首カサ位碑天

蓋鐘一文字いろは葛蒲制札打出タムシ切等也

市酒

○藁ヲ束子タル指物ヲ市酒サカトイフ一日勝負ト

云儀也指人心得ナクシテハサレカタシ老談書



猪 ○猪ノ指物ハ上下ニ替リアリ上リハ山伏出立

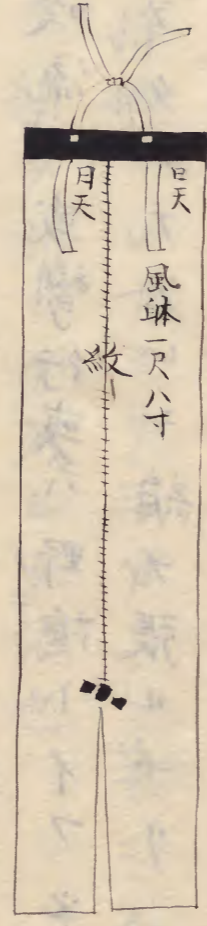
ト同下リハ羽武者ニ少ノ違アリ 老談書

腰小旗 ○源氏ハ大旗腰小旗皆押並テ白カリケリ 物治

同 ○見附考腰小旗長三尺八寸八分二幅タルヘシ色不定

家々ノ紋アルヘシ或ハ七尺八分横幅二尺二寸

八分也手旗トモ云 山井武鑑



中古腰小旗

七挑燈 ○北条左衛門太夫家中ニ相州耳繩ノ住人三好

孫太郎ト云勇士アリ指物ニ挑燈ヲセツ付タリ

孫太郎カセツ挑燈トイヒテカクレナシ然ル所

ニ松田肥後守與力山下民部左衛門尉ノ指物六

挑燈也天正十三年ノ秋氏直ト佐竹義宣ト下野

國ニヲ井テ對陣ノ時民部左衛門ノ六挑燈ヲ孫

太郎見テ其方指物ニ子細有ヤト問フ民部左衛

門聞テ挑燈ニ何ノ子細アラシ我カコノミ也ト

イフ孫太郎云武功ヲツマスレテ六ツハ指ガタ

シ天正五年ノ比上杉ト氏康武州ニオ井テ合戦

ノミギリ其一番ニ鎗ノ誉アリ氏康ヨリホウヒ

ノ感狀アリ其節我一ツ挑燈指タリ後又忠アリ



テニツ子ヤウキニヲサス三度四度六度七度功  
有テセツ指孫太郎ガ七挑燈ト名付開八州ニカ  
クレナシ北条ユ代記

四半

○武田信玄使番十二人指物白キ四半ニ黒ク誤  
給ヲ書付タルナリ弓矢ニ守護ノ天王成トテ毗  
沙門ヲ信仰在テ御館ノ内ニ毗沙門堂ヲ建不断  
并シ給トキク戦場ヘ向ヒ給フ時ハ即心即佛ノ  
心ニテ我ハ是毗沙門ト觀念アリ我使者ナラハ  
誤給ナラントノ義ニテ誤給ノ指物ヲ用サセ給  
フナリ武者物語抄

直八幡

○北条左衛門太夫サシ物ハ朽葉ノ子リニ八幡  
ト真ニ二字墨ニテカキタル指物也直八幡ト云  
イゲレナリ地黄八幡ノ差物トイヘリ豎六尺九  
寸横三尺六寸練ニテ三哥也上ニ乳七ツ脇ハ袋  
何モ乳ハ黒皮也袋ノ上下カウジ色ノ革ニテ内  
ノ方ヲ縫ヒフクムナリ武者物語抄

白シナヒ

○井伊万千世トテ十九歳家康卿親シク寵愛シ  
給ヒシ故剛兵三千ノ勢ヲ付給フ長久手ノ辰巳  
ナル山ニ三段ニ備ヘ白シナヒノ弓鉄炮ノ者五  
六百人先手ヲ張テウタメケレ太閤記池田  
勝入打死



六百八十...  
○井...  
○...

笠標

愚按笠印トイハ曹ニ付ル下式ナルヘシサレ  
ト古記ニ見ヘシ所袖ニ付シ多シ最初曹ニ付シ  
故笠印トイフ也何カニモ付ヨ印ハ笠印トイヒ  
シ左右兵衛尉赤皮ノ弦袋左右衛門尉藍皮ノ弦  
袋付ル是ヲ以テ侍ノ品ヲ知ヘキ國王ノ御宝ナ  
レハ非分ノ難ヲノカルベキ笠シルシナリ盛衰  
トアレハ何ニテモ印ヲハ笠印ト云又馬ニ付シヲ  
モ云シナリ

笠印付  
曹後古法

○下河邊庄司行平依御御甲ヲ調奉ル今日コレ



ヲ持參櫃ノ蓋ヲヒラキ御前ニ置御覽ノ處曹ノ  
後ニ笠標ヲ付ク仰曰此筒袖ニ付ルヨノツ子ノ  
儀然如何行平申テ云ク曩祖秀御朝臣ノ往例也  
其上兵ノ本意ハ先登也敵ハ名ノルヲ以テソノ  
仁ヲ知り吾家ハ後ヨリ此筒ヲ見テ先登ノヨシ  
ヲ知ル但シ袖ニ付シメ給フヘキヤ御意ニアル  
ヘシ如此物ノ調進スルニ家ノタメニ用ル故  
實也ト時ニ蒙御感<sub>シ</sub>東鑑

○義仲黒革威ノ甲ヲ着シ笠符ヲ左右袖付<sub>盛表記</sub>  
○笠符ニハ青松葉ヲ曹ノ鉢ニサシ鎧ノ袖ニ付ナ

トシテユ、シク輕骨ナリ

盛表記法住寺  
城郭合戦

○今度ノ大將軍ト名乗ニ合テ鎧ノ袖ニ南無宗  
廟八幡大菩薩ト書付タリマコトニ軍將ノ笠璽

ト見ハ夕リ<sub>盛表記義經  
院參</sub>

○源平互ニ交レリ笠標ナクテハ同士軍有ヘシ

トテ白キ絹ヲ一尺ツ、ニ切テ風トイフ文字ヲ  
書テ鎧ノ袖ニソ付タリ<sub>大平記主上自令  
修金輪法給</sub>

○栗田口法眼カ畫シ源義家朝臣ノ像ノ馬副ノ

曹ニ長キ紅ノ絹ヲ兩方ヲバ吹込ニテトメ中ハ  
笠印ノ環ニテトメシ<sub>右畫土屋家ノ藏ナリ愚母  
義家朝臣ノ像ナラニハ</sub>



笠印白カナルヘシ紅ナル是ハ畑六郎左衛門一ツ

ハ平家ノ像タルヘキ故引兩ニ糺ノ笠標馬ノ三頭ニ吹カケサセ記

井ノ濱風ニ濃紅ノ大笠符ヲ吹ソラセ三ツ物四

ツ物取著ラト同記ニ見ヘシ共ニ大笠印ナルヘシ

○鎧ノ笠符ヲミルニ其文傍折敷ニ三文字ヲ書

付著タリ 太平記

○桃井カ勢ハ皆鷹ノ鈴ヲ付タリ故殿笠印ヲ思

案シ給ヒケルニ赤鳥ヲ馬ニ付ハヤトテ其夜俄

ニ付ラレキ 今川難太平記

弓印

○大將義經ハ薄紅ノ紙ヲ切テ弓ノ鳥打ノ程ニ

左卷ニスルナリ 源平盛衰記

○軍中へ大將弓シルシノ一紙ヲ一寸ニ切テ左

卷ニスルナリ長一尺二寸ニスルナリ 弓法野

傳是齋

○藤鬼ノ鎧ノ驗弓ノ鳥打ニ長藤ヲ卷コト是大

將軍ノ驗也 體源抄ニ義貞記ヲ引テ

○重藤弓ノトリ打ノ本ヲ紙ノ廣一寸ハカリニ

切テ左卷ニマキタル是ヲ今日ノ大將軍ノシル



シトゾ見ヘタリ 平家物語

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

○重頼等入可保人本大越中其廿六世作

五十四

保侶

愚按上古ノ母衣ハ籠モナクキヌハカリ也古キ

諺ニ母衣武者ノ夕立ニアヒタルヤウナト云今

ハ絶テ其制不傳近代ハ籠アリ諸説不詳カ故後

○書ス

○貞觀十二年三月十七日戊辰從五位下行對馬

島守小野朝臣春風進起請二事其一日軍旅儲蓄

在介曹佐曹雖薄助以保侶望請縫造調布保侶衣千領

以備不虞其二曰軍興不虞倍日兼行轉餉易絶輜

重難給望請以調布縫造納糒帶袋千枚可帶士卒

駿府藏本  
二字重複為善



腰底<sub>ニ</sub>以支急速之備

三代實錄

○將軍二男十幡君始<sub>テ</sub>甲冑ヲ著シ馬ニ乘給遠州

扶持シ奉ラル小山左衛門尉朝政足立左衛門尉

遠元等着<sub>ル</sub>甲冑母廬等次第故實執權悉奉授之鏹

○二引量母衣

盛衰

白纁

日記

紅纁

保元平治

参考

母衣銘

○母衣ヲ取テ見給越中國ノ佳人ニ宮兵庫助曝尸於

戰場留名於未代トソ書タリケリ太平記京軍

○金谷修理大夫經氏ヲ大將トシテ勝タル兵三

百騎皆一樣ニ勇茶羅ヲ書テ纁ニカケ太平記

袈裟為保侶

○芳賀兵衛入道禪可嫡子伊賀守公賴中略是ハ

マシラ書

圓覺寺ノ長老ヨリ持テ奉リシ御袈裟也是ヲ母

衣ニ懸テ後世ノ惡業ヲ助レトテ懷ヨリ七条ノ

袈裟ヲ取出シ泣々公賴ニ與フ

太平記二度  
紀伊國軍

○纁ヲ母衣ト書ハ母ノ小袖ナレトソ纁ト書古

事アリヤ未其由ヲ不知事モ侍ニヤ常ノ儀ハ孩

兒ノ在母胎内時戴胞衣以防諸毒也亦武士臨戰場

時被纁以防敵矢蓋是胞衣消毒喻也以此義母衣

共書トコソ申侍ル也胎内ト戰場ト生死二時也

堪囊抄  
下学集

○或書ニ云其器領ニハヨルハケレ先大形五



罽八尺シカルヘキト也色ハ紅ニモ薄紅ニモ白  
クモ三色ノ内成ヘシシカレ氏當世ハソノ外ノ  
色ヲモ用ルト見ヘシ也緞ノ下見附考蘇武ハ四ツクニ  
取テ四ツヲニツニ分テ兩方ニ置トイヘリ李陵  
ハ一所ニ十二緞ヲスヘタリ日本ニテ熊谷カ母  
衣ハ緞トル下十六也平山ハ十二緞ニシテ中ノ  
八緞ヲハ八幡大菩薩脇四緞ハ四天王ト觀念シ  
テ取タルトイヘリ今ヤウハ大形緞ヲトラス上  
下ノ緒ヲ引ク、リニシテ用ルトナリスソノ緒  
ハ浪々、スノ緒也母衣武者討死トゲント思ヒ

定ルニハカノ浪々、ズノ緒ヲ鐙ノ母衣付ノ穴  
ニ通シテムスヒトメ余ル緒ヲ切スツルトイヘ  
リ武者物語抄

○雄備集云撰山鹿義以緞寸法ノ事五暖五尺七罽  
七尺八罽八尺十暖一丈ト云々其大小ニ定ナレ  
ソノ人器量其好ニヨルヘシ

○見附考緞色ノ下赤白ノ二色是本儀也當代ハ定儀ナ  
レ五色何ヲモ用ルト見ヘタリ

○見附考母衣文字源平藤橘ノ四性ニヨリソノ替アル  
ナリ武羅源氏神衣平氏錦衣藤氏母衣橘氏如此



四性ニヨリテカハレリ又纒ノ三流ト云テ見附考熊谷

平山蘇武其イタシ様ナト品々在之由申トイヘ

氏何レモ異説也信用イタシカタシ

○亦曰見附考昔纒キ著トイハル物在之縦ハ今ノ羽織ノ

ゴトクイタシエリオホクビ付タル物也如此シ

テ母衣ノカハリニ著セリト云異朝ノ樊會ノ衣

ヲ著セシタメシニモ可在也近代其作法ナケレ

ハ畧之

○武羅ヲ掛タル武士七子ノカケハツシ礼法事  
母衣ノカケヤウ左ヨリ掛ソメ右ニテ納ナリハ

ツス時ハ右ヨリハツシテ左ヲ後ニハツス也主

君ノ前ニテハ何方ニテモ主君ノ居給フ方ヲ後

ナニハツス也纒カケル時ハ緒ノ留ヤウ出陣戦

場ニテハ左ノ脇ニテ可留帰陳ノ時ハ右ノ脇ニ

テ可留也

○神社へ参詣シ神并スル時ハ右ノ手ヲ見附考中録ノ

緒ヲハツシ右ノ方ノ脇ニヒ子ニテ挾テ并スヘ

シ扱帰ル時ハ右ノハツシタル中録ノ緒ヲ左ノ

手ニテ本ノコトク結ヘシ出陣ノ刻父ノ前へ出

テ暇乞ヲスル時ハ左右ノ中録ノ緒ヲ左ノ手ニ



ホドキ右ノ方ノ中録ノ緒ヲハ刀ノウヘニカケ  
左ノ中録ノ緒ヲハ其俣ハツシ置テ對面スヘシ  
退出ノ時ハ先左ノ中録ノ緒ヲハ取テ次ニ右ノ  
中録ノ緒ヲ取結フ也盃酒ノ儀アラハ是左ノ中  
録ノ緒ハナシ置タルヲ右ノ肩ヲ打ユシテ前へ  
取右ノ脇へ上帯ニハサミテ酒ヲ飲ナリ  
○大將ノ前へ出ル時ハ兩方ノ中録ヲホドキン  
ノマ、ハナシ置テ出ル也退キ出ル時ハ右ノ緒  
ヨリ取テ次ニ左ノ緒ヲ取結フ也カクノ上ヨリ  
右へ取ワタガミニハサミ酒ヲノムナリ 退出

母衣礼法見附考

ノ時ハ右ノ緒ヨリ取テ次ニ左ヲトリ結フイツ  
レモ如此帰陣ノ刻ノ時ハ左右ノ怨敵勝ノ緒ヲト  
キハナシテ酒ヲノミ其後皆ハツシ納ルナリ  
○見附考母衣武者ヲ討タル時作法之事 纒武者討取  
タル時、名字、哥、スソノ角ヲ四半、切十文字折ハ四  
方ナル三重首ノ切目ニシカセ一重上ヨリ左片、顔  
打カケテ大將實檢入也又首見附考取タル場ニテノ作  
法ハ首ヲハ右ノコトク包死骸ヲハ或ハ楯ノ板  
ノ上ニノセ一哥切タル残リノ武羅ヲタ、ミ下  
ニシカセ其内一重ヲウヘニ打カケテ置ナリ



見附考  
○纒ヲ臺ニ揚ル事

母衣ヲ臺ニ揚ル一是ハ其日討死ニ窮メタル時ノ作法也。曾ノテヘシニ穴在リ此穴ヲ母衣付ニハシ白ヒ云天上ノ緒ヲアケマキ先ニ別ニ系ヲ結ヒ付母衣付ノ穴へ引通シ曾ノ諸張ヲ切アケ手ヲ以アゲマキノ先ノ糸ヲ曾ノ内へ引コシ内ニテ留メ譽世ノ緒ト領地ノ緒ヲ解キ鐙ノ猿尾ニアル母衣付ノ穴へ結ヒ付也。此時ハ曾ノ忍ノ緒マムスゴニ結テ結タル餘ヲ少モ不残結ヒ餘リノ緒ヲ結ヒメノ際ヨリ切テ捨ル也。是ハ二度

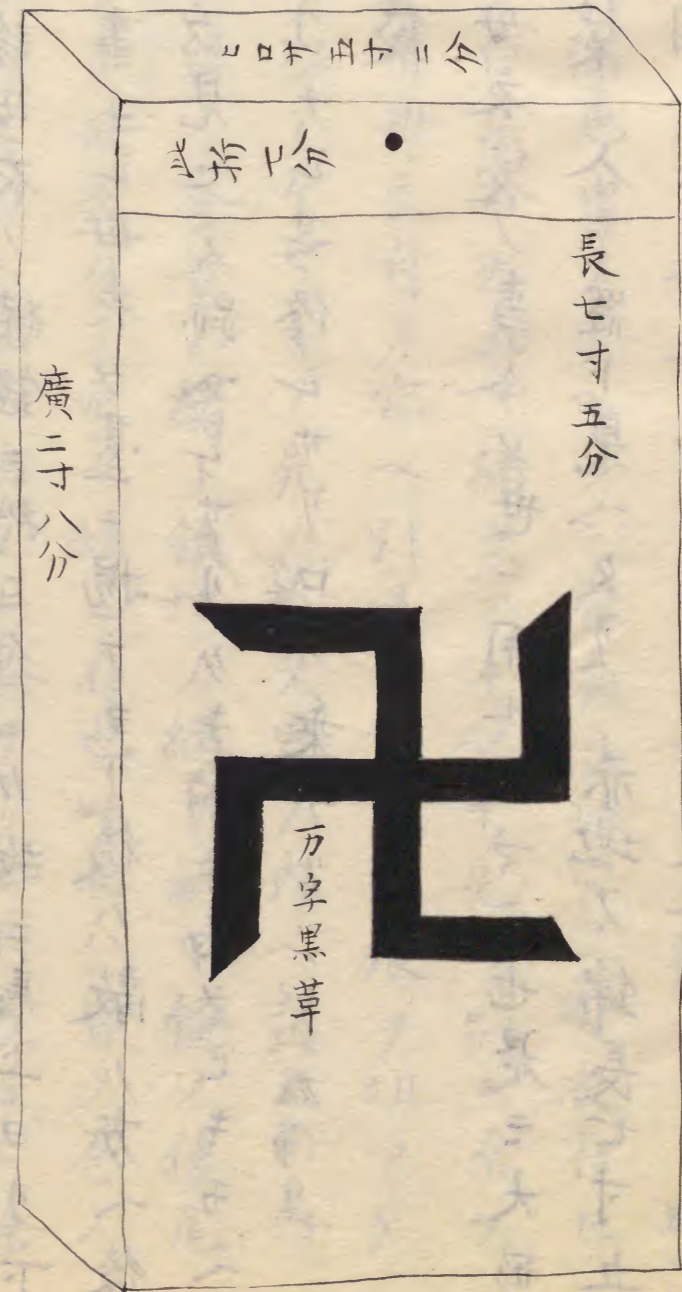
結ヒナヲサズ是ヲ限リタル事ヲシメスカ故也。勿論母衣ノ緒鐙ニ結ヒ付ルカ故ニ馬上ヨリ下立事ナシ母衣ヲ臺ニ揚テヨリ後ハ敵ノ方へ後口ヲ見セス跡ヘシサリタキ時モ馬ヲヒキカヘスヲナシ其終シサリ口ヲ棄ナリ。以上雄備集

母衣袋

○母衣袋ノ事今ノ世ニ用ル人マレ也。是モ大形紙袋ニ入テ置ト見ヘタリ。赤地ノ錦長七寸五分。潤サ五寸二分。脇ノ廣サ二寸八分。折カケ七分。袋ノ中ニ万字黒革ニテ付ル。武者物語抄



母衣袋圖



母衣袋

○母衣袋ヨリ母衣取出シテ是ヲ先途ノ戦ト思  
 ヘル氣色頭レテ 太平記將軍上洛

目

○曩袒与一資高八島ノ合戦ノ時扇ヲ射テ名ヲ  
 揚ケタリシ時ノ母衣也トテ薄紅ノ母衣ヲ錦ノ  
 袋ニ入テソ送りケリ 太平記京軍

纒子

○尾花が末ヲ分ル風ハ旗ノ影ヲヒラメカシ  
 人手靜マル事ソナキ 太平記

○十幅一丈ノ金紗ノ纒山風ニ颯ト吹ナビカセ  
 夕リ 異本太平記長尾  
 彈正カ保呂ナリ 又十幅一丈ノ薄紅  
 人母衣山風ニ颯ト吹セ 異本太平記長山  
 遠江守カ保侶也



母衣銘

○文和四年二月十五日尊氏於東寺言野兵ト合  
戰朝倉孫次郎勵軍功尊氏其戰勞ヲ感じ高字ヲ  
其母衣ニ書テ賜フ故高景ト号ス 朝倉傳説

母衣判

○尊氏新庄某ニ母衣ヲ賜フ其母衣ニ尊氏公判  
形アリ 新庄家譜

○日復繁高案ルニ保侶ハ ヤマト日本武尊ニ始ルト云  
ハ訓聞集ノ説ナリ瓊弁拾遺曰軍纒者袋ノ畧訓  
也想フニ母衣ハ保侶ノ訓ニテ鳥ノ羽保侶毛也  
打懸鎧ヲ掩フコト保侶毛ニテ腋ヲ掩ヒ藏スニ  
似タリ日本紀景行紀ニ曰夜摩苦波區珥能摩倍

羅摩 ハ釋日本紀ニ夜摩苦波大和國也鳥ノワキ  
ノ下ノ毛ヲ倍羅摩トイフ鳥ノ脇羽ノゴトク掩  
ヒ藏ス國也トアル同意也

○愚 見附考按相馬衆ノ指物ヲ見ルニ存外ニ大キナル  
物故ニ尋ケレハサレハ廣野ニテ小キ指物ハ見  
立モナク第一曹ヲ著テ野馬ヲ追フ時馬ヲ走ス  
レハ曹ニツレテ前ヘカリ難儀スルニ指物大  
キナレハ後口ヘツリ合テ能キ故人々指物ヲ大  
クスルト答フ按此ニムカシハ指物ナケレハ母  
衣ヲ掛ケシルニモシ籠モナクシテ背ニカケ



馬ヲ走スレハ風入テ袋ニナルト云フシカレハ  
是モ馬ヲ走スル時ニ風入テツリ合ノ能ク也  
又對馬守小野朝臣春風が軍旅ノ儲タ、甲冑ニ  
アリ薄トイヘ厄助クルニ保侶ヲ以テストアレ  
ハ後世野中ノ幕ナト云心ニシテ楯ニモナル物  
ナルヘシ

見附考

○或人相馬少野馬進を見し武者の内ハ籠のな  
き母衣と云ふものあり此ハ小同しきもの母衣と  
云ふものも梅の首母衣なるべき哉守尺ハ家  
尋り下

愚得隨筆卷八

鞍馬類

目錄

饒馬皆具

祭使引馬鞍

大尊會御襖女御前驅鞍

諒闇鞍

鞍

唐鞍

移鞍







沃懸地金伏輪鞍

布袋鞍

海無鞍

練鞍

金鞍

鞍紋

手形鞍

作鞍

鞍作木

角伏輪鞍

結鞍

韉

竹豹切付

豹皮切付

虎皮切付

三峯切付

葛切付

鹿子切付

皺皮切付

鞍鏡四方出

鞍吧

鹿皮

熊皮

豹皮

虎皮

毛氈

塗皮



金襴 兔羅綿 熟皮

障泥 鐙磨 小障泥

罷皮障泥

熊皮障泥

水豹毛障泥

唐鐙

半舌鐙

舌長鐙

壺鐙

武藏鐙

加賀掛

京掛

會津掛

金地鐙

五六鐙

仿木掛

逆韮

表敷

羨繩



愚得隨筆卷八

鞍馬類一

餉馬

愚按所謂菖蒲形銀面杏葉雲珠頸総八子等上古  
ノ餉馬今ハ絶テナキ事ナレハ堂上ニモ知レル  
人ナケレハ不詳也凡唐鞍ヲ用ユルトアレハ異  
朝ノ制ニナラヘル歟

○長元九御襖公卿及少納言餉馬銀面尾袋頸総  
雲珠杏葉皆具 餉抄

○治暦元御襖諸卿已上皆餉馬菖蒲形銀面唐鞍



杏葉雲珠頸総如常云 勞抄  
菖蒲形シヤウブカク 杏葉シヤウブカク 勞抄

愚按金銅ニテ 菖蒲ノ葉ノ形ナリ物三ツ銀面ニ立ル也

○金鍔馬冠也高廣各五寸上目六三華ノ形ノ五トクナル者也今案ニ俗云銀面ノ菖蒲形是也和名

銀面ギシノ 愚按馬ノ面ニカクル假面也

杏葉ギヤウヨウ 勞抄  
○辨色立成云杏葉伊得良俗云行衣布ギヤウヨウ 和名抄

雲珠ウンジュ 勞抄  
○杏葉伏輪黃鏡白鏡抄

愚按唐鞍ノ鞞ハ今ノ荷馬ノ鞞ノコトク組違ナケレハ鞞ノ組違アルベキ所ニ付ル物也制未詳

○辨色立成云雲珠字須 今按雲母之一名也為馬飾未詳和名抄 愚按此説不可ナリ

頸総ケツソウ 愚按馬ノ下アゴニ付ル総ニ其制不詳近世荷鞍飾ニ頸ニ鈴板下イフモ 付ル

頸総ノ残レル制欣俗ニハ 或山中或公狹道ニテ



鈴ノ音ヲ聞テ馬ヲ待合スル故實来云又並ニ

○鉢透物中ニ大鈴アリ下瓔珞ノ飾抄

八子ハチコ 四方手ニ付ルモノ也其制不詳愚按今世荷鞍ニ

ハツ総ト云フテ四方手ノ本ニ八筋付ル是八子

ノ残レル制歟

○両方六筋之上十二シホテノモトニ付流或記

ニモツケト記ノ飾抄

○嘉禎二年四月廿三日祭通成朝臣使節借請入

道大相国唐鞍八子無鈴云ノ飾抄

尾袋唐鞍ニ乘時馬ノ尾ニ此袋入歟不用此袋時

唐尾結トテ馬ノ尾ヲアゲマキニ結ビ候也

○長一尺二寸ニ飾抄

○馬ノ毛ヲ鞆ト所以ナリ和名抄

鞆赤滑或ハ朱漆杏葉ヲ付鞆廣一寸四分両方長

四尺三寸杏葉一方五両方十方金物一方九尺兩

方十八ニ飾抄

胸懸七尺一寸廣一寸如尾懸杏葉一方金物凡

飾抄

面懸立三尺廣一寸横加紐定三尺九寸方金物六

手網蘇芳終四位以下青淡右飾抄

蘇芳終四位以下青淡右飾抄

蘇芳終四位以下青淡右飾抄

蘇芳終四位以下青淡右飾抄

蘇芳終四位以下青淡右飾抄

蘇芳終四位以下青淡右飾抄

蘇芳終四位以下青淡右飾抄



○移鞍ニハ蘇芳卒諸伏銀飾抄

差繩 祭使種ニ終村濃或公文檀藤青淡蘇芳綏御

唐鞍見附考 愚按鞍橋ハ黒地螺鈿玉ヲ入ヨシ飾抄ニ見

二山科ノ神室ニ有リトイヘト未見之飾異国人

制ニ習ヒシ故ニ唐鞍トイフ欵鐙モ唐鐙ノ躰ナ

リ大滑ハ蘇脊也下鞍ノ下委シ

○和名久良俗ニ唐鞍移鞍結鞍等之名アリ抄和名

○唐鞍鞍橋黒地螺鈿入玉 表敷錦 大滑有金銅

金物鈴等 昔請徳大寺唐鞍写之大滑三重有伏

昔字銘抄ニ本借ノ字ニ作同抄時繪劔ノ条ニ并賀之時借請用之也云云借請ニ字文例也

伏輪二重付透金物端三十二次端ニ二十六鞍敷

下紂地錦伏輪上有菱針等 多見之必不一樣或

付藤丸金物或花橋有鈴等而此鞍大滑无鈴飾抄

○鞍褥ノ楊氏漢語抄云鞍褥久良之岐俗和名抄

則表敷ナリ

○凡以獨窠錦ヲ為鞍褥者禁之 延喜式

鐙 金銅 古唐鞍等多ハ無舌只輪ハカリ也而近代

為踏能所為欵可然 飾抄

轡 金銅 飾抄 愚按輪ナシクツワナリ

鞍履 如常 飾抄



八子



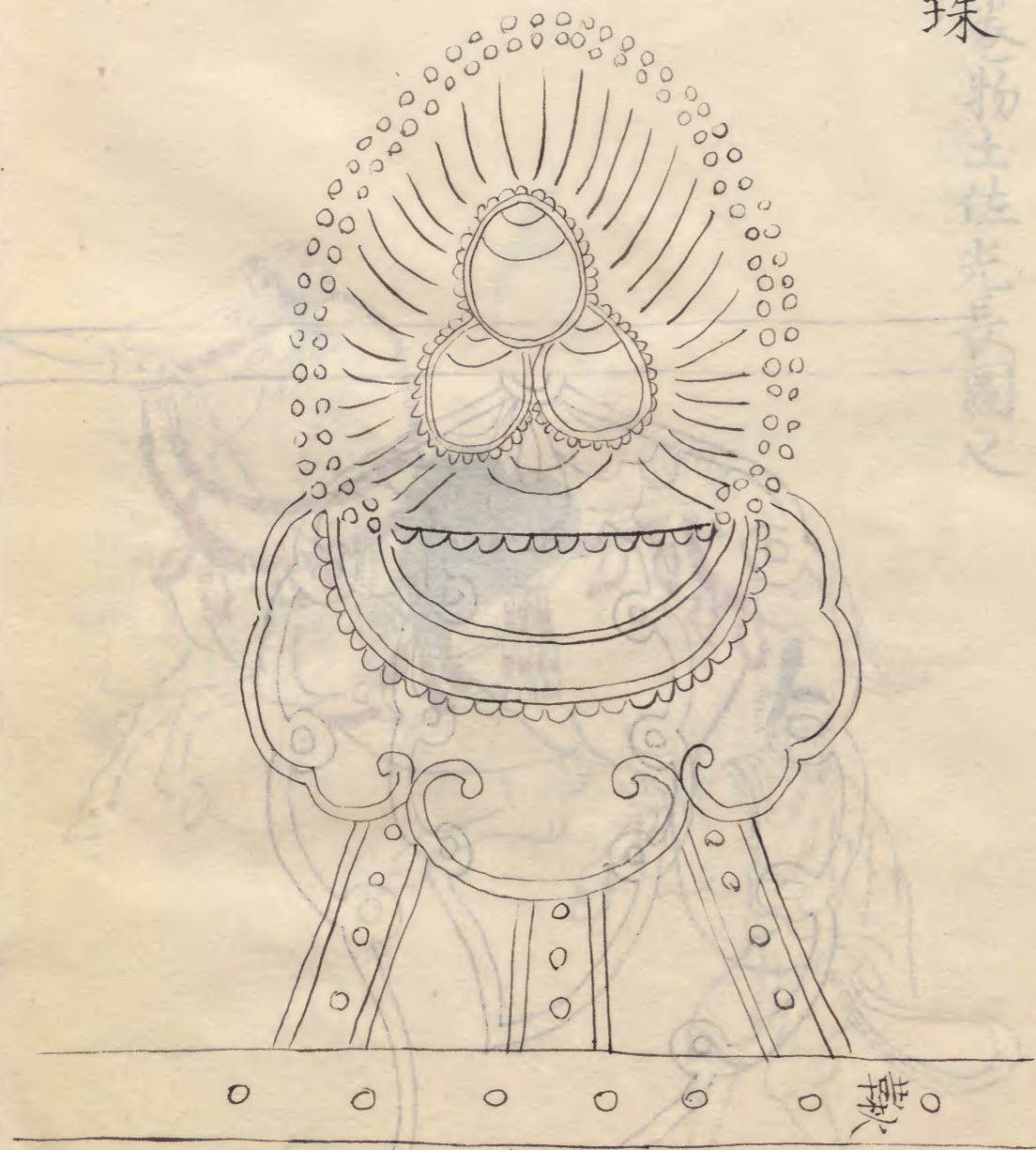
頸総

銀面苜蓿形





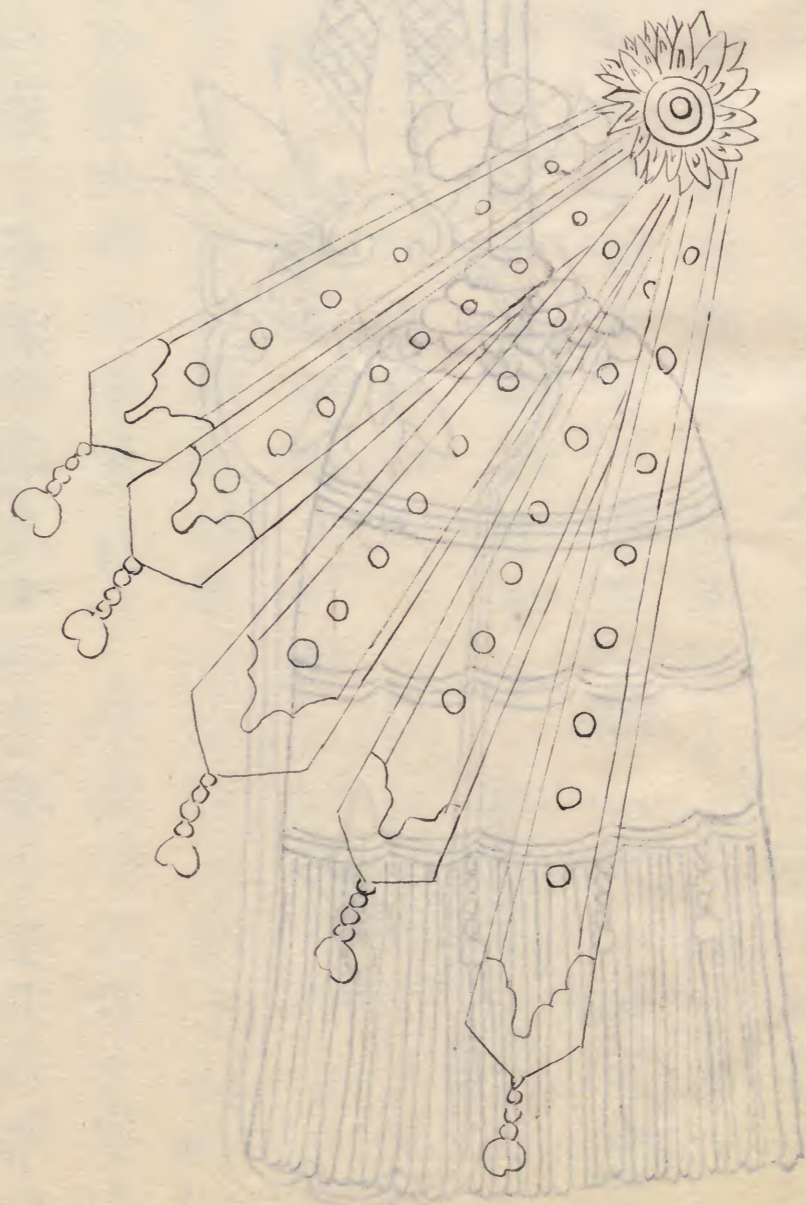
杏葉



雲珠

年中行事  
物土佐光景圖

粟然



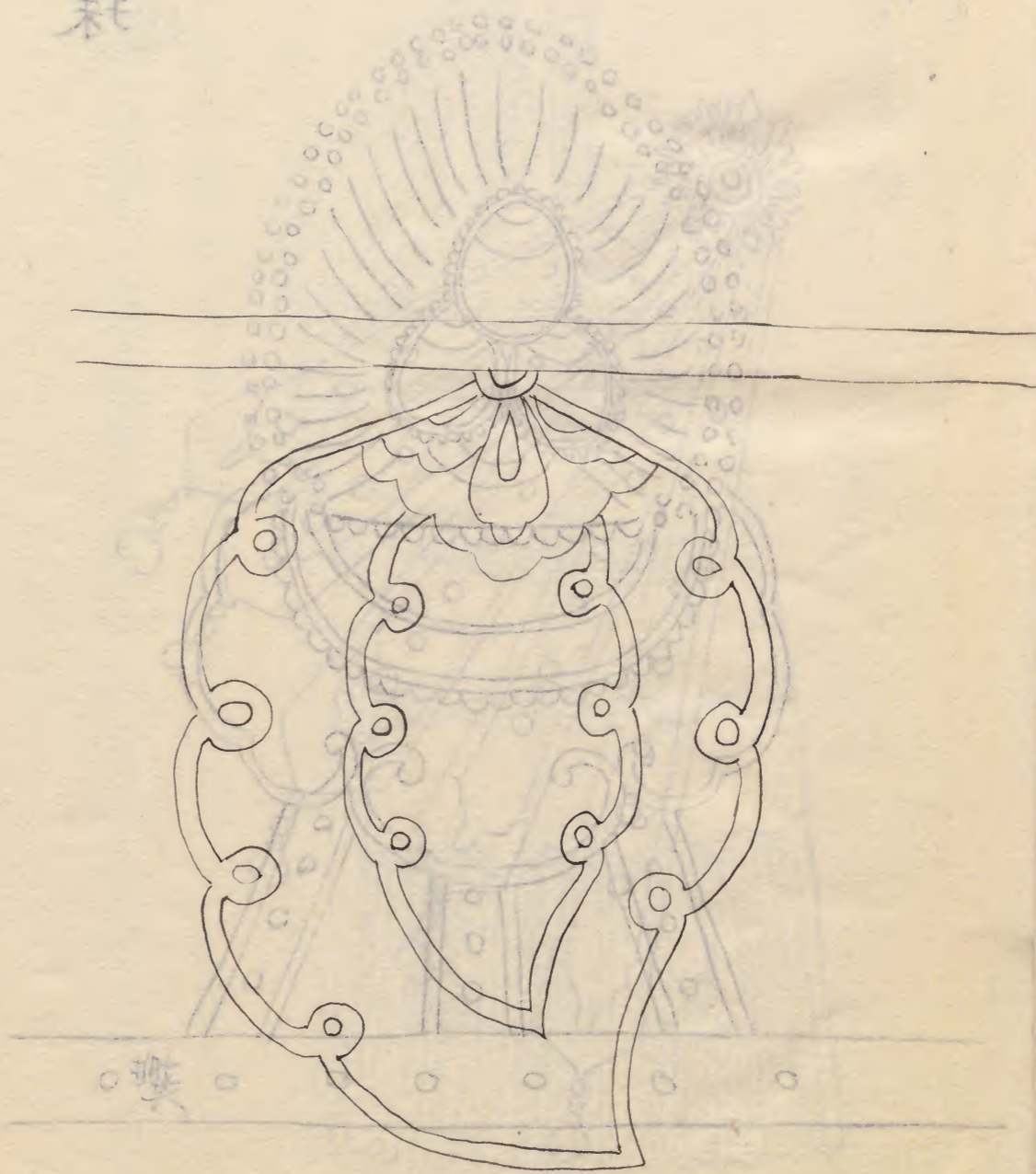
八子

新田清形



杏葉子

雲軒



年中行事卷物土佐光長圖之

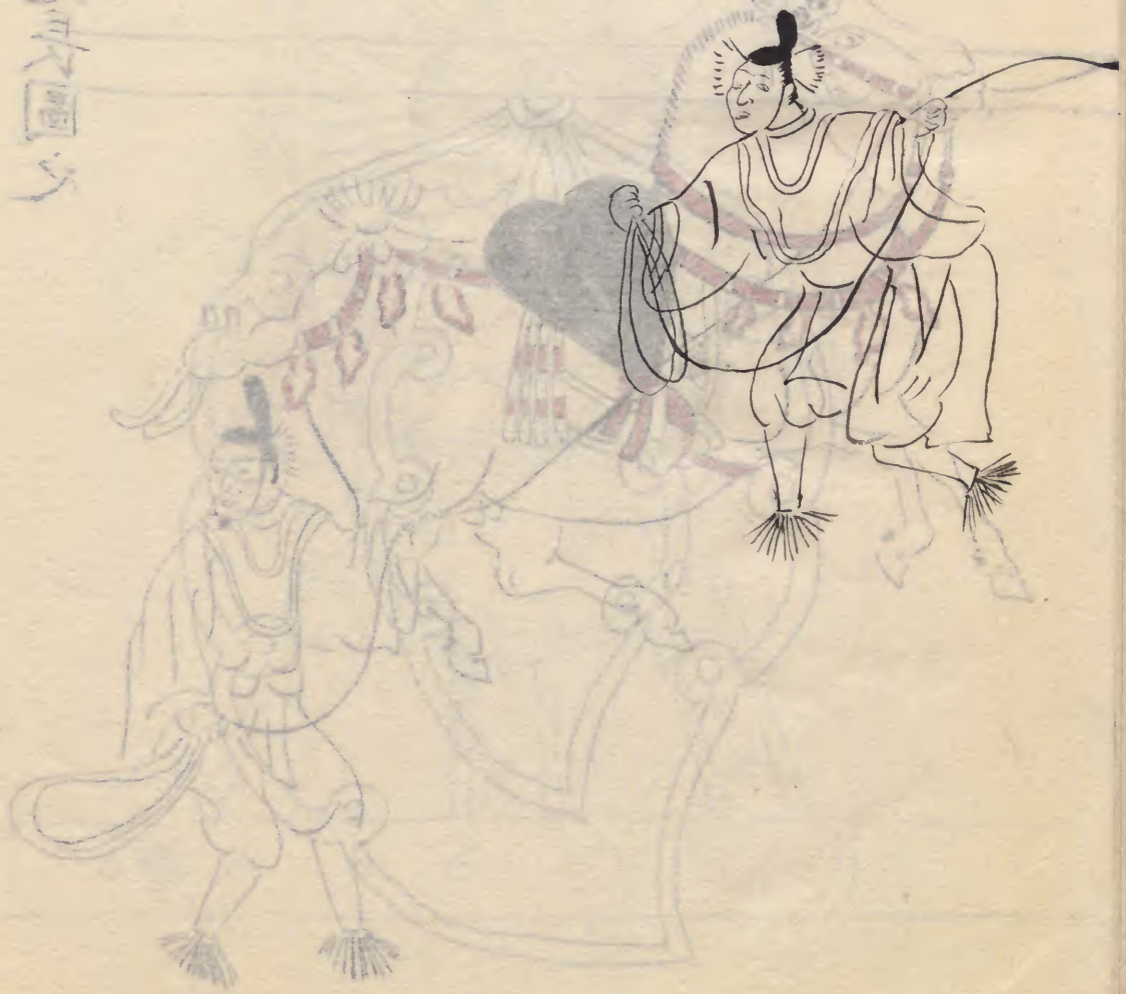




賀茂祭唐鞍



年中行事卷之十一 賀茂祭唐鞍





唐鞍具



唐鞍具

橋クラボネ付シ四緒テ手ツ

表敷 表腹帯 鐙

刀草 轡

銀面

角袋

尾袋

雲珠

頸袋

大滑

草鞞

香葉見附考

撥ムナカヒ シ リ カ ヒ 十 十 フ モ カ ヒ 十

撥セツ テ ウ

撥ム ナ カ ヒ 十 十 フ モ カ ヒ 十

入ア イ ツ ケ

餉付ア イ ツ ケ

十差

繩

引差見附考

鞞見附考

鞞見附考

鞞見附考

鞞見附考

物具裝束抄

和鞍具

橋サ ヒ ツ

大滑 鐙

轡

手繩

鐙

鐙

時用

和鞍具

橋シ ハ シ ハ シ ハ シ ハ シ ハ

表敷 表腹帯

切付

四位豹

大滑

同前

鐙



之時壺鐙 切付之時舌長鐙 轡

手繩 公卿 寮

上人 棟簾 尺泥障 切付之時用之 大清之時不用之

鞞車

連著 畝鞞 楚鞞 小總 辻子總

切付事 号下鞞 小豹 公卿及四位用之 竹豹 小豹

ヨリ玉勝物也 外記史内記亦用之 水豹 六位用之 上躡上達部用之 虎 五位用之 葦鹿

手繩事

蕙芳綵 公卿用之 棟綵 殿上人以下四位 五位用之

緋綵 六位用之

鞞覆車 見附考

打鞞履 面濃打 裏蕙芳打

織物鞞履 面青頭文紗 裏青打絹

透鞞履 地薄物青又三倍多須幾一倍也 簪ヲ拾

虎皮鞞履 萃旗鞞水干鞞之時用之

鹿皮鞞履 水干鞞常用之 殿上人絹裏地下前駐

見附考 以下布衣 差差繩事

綾打文差繩 賀茂祭使十卜風流時用之

布打文差繩 水干鞞之時常用之



白布差繩 唐鞞大和鞞黑移等常用之 右物具 東抄

○建曆二年十月廿八日御禊行幸光明峯寺撰改

時三内大臣ノ大將三ノ供奉唐鞞銀面藤頭總

雲珠鏡杏葉 古下卷 物錦之 尾袋腹鈴 裝束抄

○推古天皇十六年秋八月辛丑朔癸卯唐客入京

是日遣飭馬七十五匹而迎唐客 日本記 十八年冬

十月己丑朔丙申新羅住那使人臻於京是日命額

田部連比羅夫為迎新羅客莊馬之長

○或云ハ... 盛衰記一谷落城

了秋...

祭使引馬鞞車

治養三四廿一近衛使右少將顯家引馬鏡鞞鞞檣

未濃畝同村濃 不深 青色 泥障懸金伏輪打交差繩有蓋

然居銅 懸青紗鞞 覆有縫物 飾抄

大尊會御禊女御前驅鞞車

初齋宮入諸司鞞 仁安二九廿一殿記曰初齋宮

入野宮五位已上和鞞楚鞞 付杏葉 結唐尾 飾抄

諒闇鞞車

保元元二十七日御方違行幸或秘記曰鞞緣螺鈿

或決 懸地 葦鹿切付淺黃手繩無文章大滑等云云 飾抄



見附考  
差差繩

布衣記也

依る此少西の所是越前も助成 物に持て繩おきせ白尾木  
かへん色たおちお二筋を各指之 指長ふのふりの子  
三をささきかきさよんひの骨のどのりそつりとき  
の徳積るをささきつるもひの右のらさよあまむむ物よと  
ての糸ふらふり付也

鞍

造御鞍一具料鞍橋一架請打立造内也寮 韃皮請障  
泥皮敷隨紫草四條各長二尺已上廣一寸 緋草十  
條韃障泥結料 牛草四條各長四尺已下二尺一  
寸已上請大藏 錦三尺二寸料一尺二寸韃障端料 紫  
草料並請大藏カ 絹大一斤六兩一分四銖一兩二  
分一銖二兩一分二銖 緋帛二  
尺二寸裏料 練絶二丈三尺四寸四尺  
七尺 脊屏料一  
丈 緋帛二  
尺二寸裏料 細布二丈七尺四寸四尺  
四寸 韃料料一  
丈 信濃調布一丈六尺五寸一丈三  
尺五寸 脊屏料一  
丈 韃料料一  
丈



商布一丈七尺九寸 四尺 鞆 料七尺 脊原 料六尺 生絲大  
 二兩 分二 銖 料一 鐵三延半 延半 銖 料二  
 和炭十石 七石 漆一升三合五勺 泥料一合  
 解九把 四把 東席二枚 鞆  
 作縫工單六十六人 鞆 食米工別日一升六合  
 女一升二合鹽二合海藻二分四銖醬滓二合酒六  
 合 史喜式

見附考  
唐鞆  
移鞆

餉馬下二見へタリ  
 愚按上皇イツク島御幸ノ御門出トテ入道

相国ノ北方二位殿ノ宿所八条大宮へ御幸ナル  
 其夜ヤカテイツク島ノ御神幸ハシメラル殿下  
 ヲリカラノ御車ウツシノ馬十ト参ラセラル  
 トアレハ鞆ノミニモアラス飾ノ下ノ唐鞆ノ  
 飾ヲ移ツセシ故移カ馬ト云フナルヘシ未詳  
 ○九錫彫ノ弓御裝束御隨身裝束移鞆等也是皆  
 自仙洞被調下 東鑑  
 ○鞆下口ヲトメ為手搔會十列之移鞆同コレ  
 シ寄進ス 東鑑  
 ○小松大臣右大將ニテオハシケル時佐伯國方



一座ニテ侍ケリ治承元年三月五日内大臣ニ成  
給ケル時番長ニ十サレニケリ特賀ノ夜リセモ  
十キ馬ヲ移馬ニヒカレタリケルニ國方近習ノ  
者ヲ呼出シ申ケルハ今夜國方定テクセ物ニ乘  
侍ラレスラント近衛ノ舍人等目ヲスマシテ侍  
ラレスルニ無念ノ馬ヲ仕マツラレ事ナケキ思  
フヨシ申 古今著用集

○厩ニク口馬ノ額少シロキヲセ足タテケリ移  
ノクヲ世具鞍カケニカケタリ 宇治拾遺物語

平文移鞍 未詳愚按或人云平文ノ狩衣トイフハ

色トリ深シ狩衣也平文ノ箱トイフモ繪ガキシ  
箱成トイフシカラハ平文移鞍モ或ハ貝摺玉ヲ  
入薄文ヲ押トアレハ色ニ模様ノアル鞍歟

○近衛次將兼用平文移或ハ摺貝入玉或ハ銀或押  
薄文有錦必上敷大滑緑用錦付金文堅食大滑盡  
雲籠等鏡或入銀或押薄文響或平文或金銅子網  
蘇芳平絹有伏組羈平文付堅食金物鉞金銅差繩  
或葦津緒或藤或棟終或打文舊例左右次將各一  
人用察移近代面々新調用之宿老次或兼和鞍次  
將等夜行幸無文鞍甚不可然事歟 飾抄



○仁平元十世三臨時祭舞人隆良中將兼平文移  
禪閣調之<sup>ッ</sup>白差繩飾抄

○平紋移鞍履無所見打履無難歛飾抄  
結鞍 不詳愚按和鞍歛和名抄唐鞍移鞍結鞍ト

唐日本ノ鞍ヲイフナルハシ延喜式ニ紫草四條  
各長二尺已上廣一寸結鞍橋料トアレハ和鞍ト

一物二名歛洗草一張結鞍著鞆持鞍貫  
鞆鞆等料 延喜式  
左馬寮  
和鞍 吾国ノ鞍制ナリ

○行幸可用縁螺鈿ニ雖然近代或鏡鞍或蒔繪鞍  
是所用也切付四位已上豹皮五位已下虎皮手綱

見見附考公卿蘇芳終四位已下棟終差繩公卿見附考師差繩四位

見見附考已下片差繩行幸舌短御幸舌長障泥飾抄  
水精地鞍 木地鞍ノヨシ近衛攝政殿被仰シ然レ

見見附考○大永三春日詣中納言中將水精地鞍 桃花葉葉  
鏡鞍 成鏡地 未詳

愚按縁ニ掘物トアリテ中ノナメラカ成鞍歛  
小笠原家ニテ四方手ニ二寸計ノ丸キ鏡ノコト  
ク成四方手ヲ付テ鏡鞍トイフ是ハムカシノ如  
何イヒケレ今ハ鏡四方出ト云モノ也鏡鞍ト覺



タルハ誤レル古盡ニモ鏡塩子付シ躰多ク見  
ヘタリ桃花葉葉鞞具足ノ中鏡地赤銅ト見タリ  
○保安五二十御馬栗毛鏡地鞞但縁物舌長鏡代  
豹切付不竹連着鞞蘇芳終子網等也飾抄  
○鏡地赤銅云々桃花葉葉  
○奥ノヒテヒラカモトヨリ木曾殿ヘレウテイ  
ニ足奉ル一疋ハ白月毛一疋ハレシセシアシ毛  
ヤガテ此馬ニカ、之鞞オ井テ白山ノヤシ口  
へ神馬ニ立ラル平家物語  
具鞞愚按貝摺ノ鞞也或ハ螺鈿俗ニ云青貝ナリ

○御馬一疋鴉毛蛛丸貝鞞東鑑

○少キ巴摺丸貝鞞盛表記 巴関東下向柳櫻摺貝鞞保元平治参考

見附考○マロホヤスツタル金フクリンノ鞞平家物語

白鞞愚按不詳白橋凡イフカ庭訓往末ニ白橋ニ

依ル木地鞞トイフ事歟

○白鞞録倉年中行事白鞞太平記

○御馬葦毛白鞞付金柳子丸打物東鑑

見附考○神馬奉送鹿毛駁秘藏御馬白鞞ヲカレラル鎌

黄地鞞未詳黄地八時繪地歟

○黄地治養三朝親三位中將云々桃花葉葉



銀鞞見附考 未詳愚按或ハ銀地鞞銀梨子地欵銀粉欵銀金

貝欵

銀見附考 ○銀地天永三春日詣時引馬云云 桃花葉葉

○御馬槽毛置銀鞞懸上総鞞云云 東鑑

○銀鞞糸鞞 東鑑

張鞞 愚按草ニテ包縫シ鞞也今モナメシ草ニテ

包塗ナリ 黒漆ノ張鞞 庭訓往來

○黒ヌリノハリカハ鞞 東鑑

張皮 ○公方様御張鞞唐豹葛切付小泥障ハナシ播磨皮ノ白キ力草金刀ナク口カワニテクケル紫

鞞 鎌倉年中行事

○張鞞ハ鞞復カケテ引事ナシ 鎌倉年中行事

水干鞞 未詳

○如近衛將用水干鞞用移云云 和鞞不可然禁秘抄内裏燒亡

鉢鞞 未詳

○鉢鞞野望用之 桃花葉葉

見附考 龜甲地鞞 愚按地文ニ亀甲ホリシ鞞欵

○文治五朝親少將賴長云云 桃花葉葉

蒔繪鞞 梨子鞞

黒鞞 乘馬鞞公卿以下五位已上黒地鞞螺鈿無



時繪 拾芥抄

○黒鞆置テ熊皮ノ泥障指テ乗タリケリ盛衰記  
黄伏輪 愚按黄トイフハ鍔テ金銅ノ一ニテ今云ヤ  
キ付ナリ 負<sup>カ</sup>按<sup>三</sup>金伏輪也

○高細ハ生時ニ黄覆輪ノ鞆置白キ轡ニ引兩ノ  
手細結テ舍人六人付 盛衰記

金伏輪 大河原五尺ノ馬ト聞ヘシニ金覆輪ノ鞆  
置テ 明德記

○カシハホニミ、ツクオタル金覆輪鞆置 平家  
物語  
○丸ホヤ摺タル金フクリンノ鞆

見附考  
白覆輪 愚按シロメナカシ銀ノツキ等也

○太逞ニ白フクリンノ鞆置テ厚然ノ鞆カケ 盛衰  
記

○栗毛ノ馬ノ八寸ニハズンタルニ白伏輪鞆 明德  
記

○白伏輪内ハ白焼付責貝黒鞆何<sup>モ</sup>不苦 鎌倉年中  
行事

銀覆輪 中ハ金伏輪耳ハ白覆輪 盛衰記

汰懸地 愚按イカケ地トイフハ粉ニテスリシ鞆也

○イカケ地ノ鞆置テ銀壺ノ鍔差厚然ノ鞆唐糸  
子網ニルヤカニ結テカケ 異本ハ子記

汰懸地金伏輪鞆 愚按粉ニテスリ伏輪取タル鞆也

○イカケ地ノ金フクリンノ鞆置テ 保元平治  
異本



見附考

鑄懸地 黄履輪鞞 盛衰記

布袋鞞 愚按近代ノ制欵前後ノ輪ノ海ナクシテ

ムクリト高キヲ云ナリ

海無鞞 嫁入ノトモニ猿毛ノ馬ニノルヘカラズ

サルカワウツホヲツケ海ナシノクラニノラズ

諸礼集

練鞞 愚按馬唐ヲモ不残布キセタリシ鞞ナリ

金鞞 金鞞金燈雖非御法公方様依被召之斟酌ア

ルナリ 鑑倉年中行事

鞞紋 白鞞ニ金獅子丸ノ打物ヲ付 東鑑

○遠雁ノ文打タル鞞 盛衰記

カシハ木ニミツク打タル金伏輪鞞 平家物語

手形 或ハ鎌田クリ

○鎌田兵衛政清与三左衛門尉景安トクニテ首  
ヲ取ル比ハ十二月廿七日巳ノ時ハカリ一村雨ヲ  
リテ風烈ク吹タレハ鎌田カ鞞ノ前輪ニツラ、  
キテ棄ツツラヒシニ忌源太義平見給ヒテ手形  
ヲ付テソレヤトノタマヒシカハ打物ヌイテツ  
ツクト手形切テ棄タリシヨリ始レリ今モ鎌田

平治物語



作鞞




傳云伊勢守貞繼室町家ニ仕ヘテ執事ノ一人タ  
リ貞繼乗馬ノ法并鞞鐙ヲ作ルヲ大坪道禪ニ  
傳フ其後鹿島神ニ祈テ益ソノ妙ヲ得タリ是ヲ  
神作トイフ後又神ノ字ヲ省キテ作鞞作鐙トイ  
フ遠方ニ行テ其鞞サケズソノ馬痛マヌ世ニ調  
法トス小田原記ニ伊勢守其子貞繼足利殿縁者  
ナリシカバ元弘比尊氏將軍上洛ノ時御供申シ  
上洛有ル此人天性細工ノ妙匠ヲ得タリ大坪道  
禪ト云人鞞ヲ作鐙ヲキツ恰モ天エヲ得タリ時ノ人

馬ノ再來カトイフ彼道禪普ク諸國ヲ廻リ弟子  
ヲタツヌルニ此伊勢守ニ勝ル人ナカリシトテ  
鞞鐙ノ妙エヲ悉ク相傳ス法名照禪作鞞元祖也  
ト云々作ノ家ト稱スル所ニ十一代ト譜ニ見ル

鞞木 結鞞

愚按前論後輪ヲハ櫂木ノ自然曲ニテ作り居木  
ハ合歡木水木沢栗等ノ木ヲ用ユ木生火ニテ諸  
木火ノナキ木ハナシ此三木ハ火ノ出サル木ニ  
ハ居木ニ作ル外木ハ火生レシバリ繩切ル也  
○鞞ヲ結フ俗ニシハルトイフハイギヲユフ故



ノ誹言也今ハ鞞ヲ結フニ真行草アリ  如此ナ  
ルヲ真ノシバリト云  如此ナルヲ行ノシバリ  
ト云  如此ナルヲ草ノシバリト云又作シハリ  
トテ作ノ鞞ハ草ニテシハル習トス是ハ鞞ヲ損  
スマシキガタノ也作シバリノ時ハ真ノシバリ  
ニテトメラ錯ハズシテ穴へ押入サテ草ノ切ク  
ズヲ押入留ムル也上古ハ何レモ草シバリ欵延  
喜式ニ鞞ヲ結料草見ヘタリ

角 伏輪鞞 古次京ヲ尋常ニソ出立ケルアヒクビ  
キガキジタルスリツクシノヒタレニ秋毛ノ

沃懸地

ムカバキハキ黒栗毛ナル馬ニツノフクリンノ  
鞞置ラ糸タリ 義経記

○ツキ毛ナル馬ニ沃懸地鞞ヲキテ大マタラノ  
ムカバキ 鞞覆ニカケ 義経記

白鞞

○白栗毛白茸毛ナル馬ニ足白鞞ヲカセテソ引  
ケル是モシニ付神馬ト名付タリ 義経記

鞞文

○塩干浮ニ捨小船ヲ金貝ニ磨タル名越尾張守ハ  
家紋三本唐笠ヲ金貝ニ磨タル鞞置 太平記

鞞木

○凡禁断州大小麥青田為馬州賣買并桑棗木鞞  
橋 定喜式



鏡鞞

○月毛ナル馬ニ鏡鞞ヲイテソ乗タリ

保元物語

鉢鞞

○鉢鞞 愚按今俗ニ布袋鞞ト云ハ鉢鞞歟古ニ

布袋鞞

布袋鞞ト云フ名目所見ナシ近世布袋鞞ト云ハ

前後輪海ナシムツクリト中高キヲ云フ塔ノ伏

鉢ニ似テ鉢ヲ依シニ似タルトノ事歟

○白雲寺白雲寺ノ事ニ云ク

○白雲寺ノ事ニ云ク

○白雲寺ノ事ニ云ク

○白雲寺ノ事ニ云ク

○白雲寺ノ事ニ云ク

鞞

愚按上古ハ総テ下鞞トイヒシヲ鞞ノニツア

レハムカシハ標脊トイヒシヲ今ハ膚付トイフ

ナリツレニ少ク短ノ切付ユヘニ切付ト云歟飾

抄ニ大滑ト見ヘシモオホナメト可訓猶大標脊

言ニ古ハ此モノニモ定レル法アリキ

○唐韻云鞞則前及和名 鞞鞞之 鞞在船及今按俗

鞞之總之 和名抄

○蔣勣切韻云標 思限反標脊 鞞下標脊之 和名抄

見附考

竹豹切付 三位已上竹豹切付

拾芥抄 刀劍部 尾鞞之条 合可考



豹皮切付 四位已上豹切付 飾抄

○豹切付 不竹豹 同記

虎皮切付 五位以下虎皮切付 飾抄

三峯切付 三峯ノ切付トイフハ 例ノ大滑無子細

欵 園大層

葛切付 ツラ 大カタビラノトキハツ、ラキツツケオ  
見附考 リシリカヒカケ給ヒシ 宗書記

○公方様御張鞆豹皮葛切付 録倉年中行事

○然シテ管領同奉公衆諸大名御全世ノ時ハ葛切付播磨皮白力草金具色皮ニテクケラル 同記

鹿子切付 虎鹿子切付 庭訓往來

皺皮切付 毛鞆

○命婦鞆一具已上毛鞆ヤ孺鞆四具 皺皮鞆 定喜式  
草鹿切付

○或秘記曰鞆縁螺鈿草鹿切付浅黄手綱無文章  
大滑等云々 飾抄

○常ニ大笠懸イル時ノクラハ引ハタノ切付不  
若御手組又ハハレノ大笠懸ノ時ハツ、ラ切付  
ナルベシ拵而ツバヲ切付木ナリ 兼人草



表敷 和名抄鞞褥<sup>ハハシ</sup>宇波<sup>ハシ</sup>之岐 今云高麗馬<sup>ハハシ</sup>鞞<sup>ハシ</sup>欵<sup>ハシ</sup>壽

永御禊行幸ニ撰政被用縫物表敷

切付 ○千野六郎ガ弓手ノ切付ノ後ノ餘<sup>ハシ</sup>ノ篋<sup>ハシ</sup>深ニ射

サセテ馬倒ニコロヒケレ 兼久記

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

鞞<sup>ニホテ</sup>

考声切韻云鞞<sup>碎回反</sup>名之保<sup>天加</sup>鞞<sup>鞞橋</sup>皮也 和名抄

○鞞ニシホテ付ルト云海アル故也 大諸礼此説

不可也四方出也

○右前ヲ馬手ノ緒留<sup>モツ</sup>厄呼<sup>モツ</sup>之後右ヲ物付<sup>モツ</sup>後左ヲ

物付 挿付ト唱 俎談

○或書云今ノ長緒付軍馬ノ具加礼比都<sup>カ</sup>気ノ鞞

欵<sup>カ</sup>和名緘<sup>カ</sup>附<sup>カ</sup>

○緘<sup>カ</sup>紐ニハ利用多シ三六寸ニ節也 要馬録 愚按

三六寸ハ一尺八寸許ノ紐ヲ付ナルヘシ惟久ガ



畫ニ四方出ニ諸ヲ二筋付シ四方出アリムカシ  
ノ八子或ハモツケト云是ナリ

四方

○首ヲ太刀ノサキニ貫テ鬼神ノヤウニ云ツル  
閑屋カ頭景廉分捕ニシタリヤト云テ抛出ス下  
部是ヲ取テ持タリケルヲ北條乞取テ鞍ノシホ  
テニ付タリケリ 盛衰記ハ牧夜討

取付

○三ツノ首ニツヲハ取付ニ付一ツ太刀ノ先ニ  
貫テ 盛衰記小坪合戦

日

○首ヲ搔キ切テアギトラ喉ハ貫トツ付ニ著テ  
馳テ行 太平記師直  
以下被誅

鏡鞍 二寸許ノ丸鏡ノコトク成ル四方出ナリ惟

久カ畫ニモ多ク見ヘタリ

○餉 クハク 食義也朝餉夕餉云 下学集 餉ヲ付ル四方

出ナリ

○敵首鋒ニ貫キトツ付ニ著テ 太平記畠山  
峠合戦







豹皮  
毛氈

ハ大名家カクノコトシ鹿皮通法コレヲ用何レ  
ノ皮モケサキヲ馬ノ丸ヘカケテ手オ、ヒノ端  
ヲ両方ノカ草ニ付テ胸懸ニテ引マハシ留ムヘ  
シ 三伎一統

毛氈

○引馬ノ事三職御相狝象吉良殿石橋殿土岐殿  
六角殿ノイツレ王輿ヲ先ヘヒカレ候其外ノ象ハ  
輿ノ跡ニテカレ候又アカキ毛氈ノクラオホヒ  
ハ公方様御物ノホカハ大名ズイブシノ象ハカ  
リ古ヘハカケラレ候色ノカワリタルモタレモ  
ヒケ候シ當時御免候テイカナル人モ分限タニ

段子金襴  
免羅綿  
毛氈

候ヘハカケラレ候不覺悟ノヨシニ金仙寺モノ  
カタリ候シ又クラオホヒカクルヤウクラオホ  
ヒノウチニツケタルヲ、バチカラガワニユヒ  
ツケテウヘラムナガヒニテヒキマハスベシ又  
ツ子ノ人ノクラオホヒニハナメシラアカリウ  
ルシヌリタルヲ用ヒタルガヨク候 宗五記

○公方様御鞆履ハ段子金襴ニ 録倉年中行事

○菅領ノ鞆履ハ免羅綿同毛氈ナリ 同記

○永正十三年六月二日惠林院殿義植白笠袋并  
毛氈鞆履御免御内書頂戴 朝倉系圖







鞞不差障泥 延喜彈正式

障泥伏輪

○障泥伏輪華族人懸之或以黃絲但押之御幸及春日詣等之時用之行幸日地下前駟不指障泥撰改兼用馬同不指泥障之由見玉葉云々 桃花葉

同

○障泥伏輪之事保元元年四月十一日御禊前駟左衛門佐光宗障泥有伏輪 飾抄

白伏輪

○參御所御馬葦毛白鞞付金獅子丸打物泥障白伏輪ナリ 東鑑

鐙摺

○アフリサスヘカラス但アブミスリハクルシカラス泥障トハ毛皮ノ車也播磨皮ノマル作メ

ルハタルシカラヌ 三儀一統 愚接近世ノ板泥

障ハアフミスリナル狄毛皮ノアフリハ禁制ニ

テ板アフリハヒシト見ヘタリ今ハ上下ノ差別

ナク泥障サス車ニハナリヌ

小障泥

○小障泥 未詳公方様御張鞞唐豹皮葛切付泥

ナシ 播磨皮ノ白キ力革金具ヲハク口カワニテ

クケル紫鞞小泥障ハメサレズ 錦倉年中行事

熊皮障泥 熊皮障泥ヒツ五位以上着之ヒツ延喜彈正式

熊皮障泥 筒井淨妙明春黒鞞置テ熊皮障泥指テ

乗タリ 盛衰記



熊皮

○熊皮泥障 庭訓往未

水豹毛障泥

二位家折烏帽子深紺緋青丹打水干袴

紅衣深羽野矢复毛行騰黒ノ馬楚鞞水豹毛障泥 東鑑

水豹

○水豹泥障 庭訓往未

○渡辺又郎ノ祖母ハ羽州赤濱ノ上松ノ家人ニテ

アリシ極老ニテ又郎女所ニ養育セシガ語リキ共

母ノ若キ時マテ上杉ノ家中ニテ大身ハカクベツ

障泥大カクハゴカニテ有リシト云

水豹

○仁平三年九月十四日去々年厩舎人長勝近貞  
為使下向奥州先年可増奥州高鞞庄年貢之由禪

閣被仰基衡云々 去年基衡中日不得増所仰之數

可増進高鞞金十兩 水豹皮五枚御馬二匹

遊佐金十兩鷹羽五尻 御馬三匹者仰日三ヶ所

本良遊 佐屋代 所申非無其理依請至干高鞞大曾祢兩庄

者田多地廣所増不幾猶減本數可進高鞞馬三匹

云々 台記

アサラシ

○上馬五十匹ナシ引ケル其外金羽アサラシ縮

布ノタグニ數シラスモテマシレリ 奥州後三年記

尺障泥

○尺泥障切付之持用之大滑之時不用之 物具装束抄

○本尊造立間基衡乞支度於佛師雲慶云注出



上中下之三品基衡令領狀中品運功於佛師所謂  
金百兩鷲羽百尾七間間中徑水豹皮六十枚安  
達領十疋希婦細布二千端糠部駿馬十疋白布三  
千端信夫毛地摺千端等之  
東鑑文治  
五年記

○障泥 唐韻小韓又蔽泥也俗名あきり或はらり  
と云ふ飛くあきり云々を以て考ふるに  
源氏流あきり云々を以てあり  
假名字例

鐙

鏡鐙見附考

唐鐙 愚按唐鐙ハ舌十ク輪バカリアルナリ

○鐙古唐鞞等無舌只輪計也近代為踏能所為致  
抄飾

○馬ヲアシトオモフヘキニアラス唐鞞ハサラ  
ナル鐙ノカケウベクモアラズフレニ馬ハイタ  
クツマツケハオチヌ  
宇治拾遺物語

半舌鐙 愚按半舌ハ唐鐙ニ舌ヲ少シ付シナリ

○舌短則半舌之唐鐙ハ難踏故少舌ヲ付シ也  
抄飾  
舌長鐙 愚按半舌ヨリ舌長キ故舌長トイフ歟



壺 燈 愚按足ノ先ノ入程ニ壺ヲ付シ燈ナリ

○南都正倉院御藏ニ聖武帝ノ物ナリトテ壺燈アリ  
アリ  
○掛州天王寺ニ聖德太子ノ壺燈アリ是ハ壺ハカリニテ舌ナシ

銀壺

○イカケ地鞆置テ銀壺ノ燈差水色ノ厚総ノ鞆ニ唐絲ノ手綱ユルヤカニ結テカケ 異本太平記

武藏燈 加賀掛 京掛 會津掛 金地燈

千田掛

○源平盛衰記ニ武藏燈見ヘタリ愚按加賀國ヨ

武藏燈

リ出ル 燈ヲ加賀掛奥州會津スキスヨリ出ルラ  
會津掛トイヘハ武藏ヨリ出レ故武藏燈トイヒ  
シカ今世ノ燈長舌ニモアラス半舌壺燈ニモアラ子ハ武藏燈放金地燈ト庭訓徃来ニ見ヘシ今ノ燈ニ又或人ノ云江府中橋ノ邊ニ武藏燈ト省板ヲ出セシ鍛冶アリキ今ハソノ跡断タリ此人今ノ五六燈ノ骨バカリ作りシニ金地ニモセヨ五六燈ニモセヨ今ノ燈ノ形武藏燈ナル歟  
○愚見抄ニ燈ハ武藏カ名物也根元武藏ヨリ来レリ信濃ノ真弓讚岐圓坐甲斐駒十トソコノ



七条細燈

名物ナリ 伊勢物語註

○不善ノモノ北条殿下知ト称シテ七条細工ノ  
燈ヲ押取ラントス職事ニ訴ヘ申ニツイテ被尋  
下之 東鑑

見附考

○近代真鍮燈千田掛ナト云モ形ハ同シ事ナリ

五六燈

愚按木燈ノ古畫ニモ見ヘタリ木燈ヲ黒

クヌリシ之鐵五分木六分文リアル故ニ五六掛  
ト云之或説ニ五六ハアヤマレリ五石掛之米五  
石ヲカケテ延ヒス曲ラヌヲ上品トスル故ナリ  
ト云ハ不可ナリ

見附考

佐々木掛

愚按昔時依ニ木盛綱藤戸ノ先陣ヲ渡

セシ時乗タル燈ナリトテ將軍家ニアリシヲ堀  
田紀正俊賜テ彼家ニアリソノ制今ノ五六燈ニテ無  
子細鳩胸黒ヌリシソレヲ模セシヲ世ニ佐々木  
掛トイフ之傳ヘ云片燈ハ盜賊ノタメニウセテ  
作リタセリ共失シモ何ノ家ニカ今ニアリト云

○大壺燈

定喜式

燈長目

江次第臨時競馬

○水干鞞舌長燈

杏葉轡懸総

康富日記 文安  
五年正月七日

○燈ノミヅオガ子

保元平治参考

○鞞橋木燈

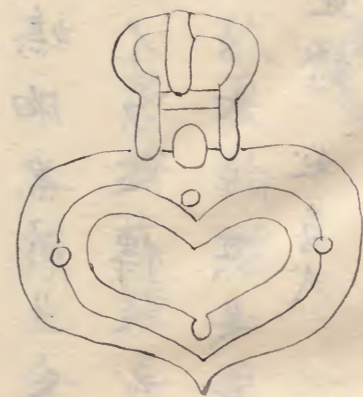
定喜式  
左馬寮

大壺燈  
長目常

ミヅオガ子

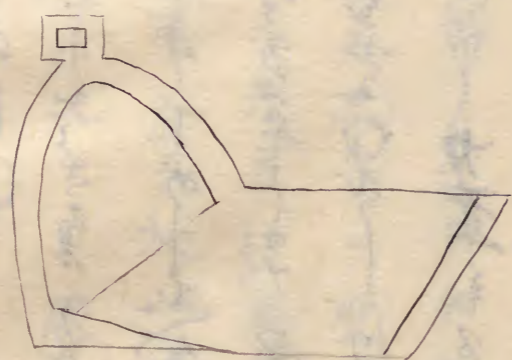


撰州天王寺藏壺鐙



鉸具

鐙 錯抄 舌長鐙 野宮之基公説













八の... 巻九... 目録... 鞍馬類二... 愚得隨筆卷九

愚得隨筆卷九

鞍馬類二

目錄

鞞

連著鞞

辻総鞞

楚鞞

葦鹿鞞

小総鞞

小畝連著



紫末濃鞞 檀末濃鞞

上総鞞

厚総鞞 大総鞞

糸総鞞

野鞞

纏鞞

緋鞞

紫鞞

紺鞞

織鞞

當骨

鞞頭

羨藻銜

輪無銜

平文銜

虫雲銜

白磨銜

水付

綿

韁

鏡銜

白銜



鞭 塗鞭 竹鞭 紫竹鞭 無節鞭 埋鞭

鷹秤

馬印

瓠

岩衆

馬甲

愚得隨筆卷九

日下部景衡集

鞍馬類二

鞞

○古鞞十イサ夕總短近代鞞甚大總長四奈大納言隆親母儀三品八十島勅使之時為藏人頭直衣出衣令張口彼時鞞ニ付金物故松殿入道見物曰鞞金物有打所云々若过ニ可打歛一向今按也可尋 飾抄

連着鞞 愚按連着鞞ハ杏葉付レコト夕總ヲ付レ鞞也延喜式彈正ノ下ニ凡鞞ノ總ハ不得連着



但鞞ノ衢<sup>ツケ</sup>及後ノ末ニ付事ハユルヌトアレハ総  
ヲ付レ鞞ハ連著鞞ニテ鞞ノ辻ニハカリ付レハ  
辻総鞞ナリ

○公卿以下五位已上黒地鞞螺鈿無連著鞞不指  
泥障 延喜彈正式

○連著承安五朝觀二位中將 桃花葉葉

○保安五二十御馬栗毛鏡鞞舌長鏡豹切付連著  
鞞蘇芳淡手綱等也 飾抄 ○黒鶴毛なる弓連<sup>レ</sup>蘇<sup>ク</sup>

辻総鞞  
の鞞懸<sup>レ</sup>太平記芳質兵中  
名軍中

愚按鞞ノ組違雲珠ノアルヘキ所ニ総ヲ付レ鞞

也連著鞞ト合考ヘシ

○三位以上竹豹切付四位虎辻総鞞<sup>ニ</sup>延喜彈  
正式

楚鞞 未詳

愚按延文比既ニサダカナラサリシヤ園太曆ニ  
或人楚鞞ト畝太連著トハ平畝ニヤト問申セシ

ニ楚鞞ノ躰尋常ノ鞞ノ外アナカクニ所見アラ

ストユノ中園相國答給フ和鞞ニ楚鞞杏葉付シ

トアルナレハ飾抄ニ見ヘシ赤滑或朱漆鞞杏葉

付レト云鞞ヲヤイフヘキ下飾抄ノ近世荷鞞ノ

鞞ノ躰楚鞞ニ似タルヘキ下欽海老鞞ノ鞞ヲ當世ハ



○弘安二年齋宮野宮ニ入給フ時五位已上和  
鞞楚鞞杏葉 飾抄

○御後騎楚鞞 東鑑

○黒馬楚鞞水豹毛障泥 東鑑

葺鹿鞞 六位葺鹿鞞 拾芥抄

小総鞞 愚按ムカシノ鞞ノ形ナリ

○小総鞞 桃花葉葉

○古鞞チイサク総短近代鞞甚大総長云々 飾抄

○金伏輪ノ鞞ヲカセ小総ノシリガヒ懸 平家物語

小畝連著 未詳愚按織鞞ニ総付レシリカヒ歛

○天永三春日詣中納言中將ト云々 桃花葉葉

紫未濃鞞 檀末濃鞞 檀村濃鞞

○仁平四春日詣上卿乗替云々 桃花葉葉

○檀末濃鞞檀村濃鞞 飾抄

上総鞞 愚按當世ノ鞞ニ花菱ヲ深レ古キ鞞ヲ見

夕リキ此等ナルヘキカ未詳

○御馬一疋銀鞍懸上総鞞 東鑑

○内記兵庫允深鞞ノ故實ヲ注追ス別而仰ニ依

テ也彼家代々上総國ニオ井テ此事ヲ奉行ス鑑

○上総鞞 庭訓往來



厚総鞆 大総鞆氏

○太遲フツクシキ = 白覆輪鞆置テ厚総ノ鞆ヲ懸タリ盛裏記

○金伏輪鞆置テ厚総ノ鞆カケ明德記

糸総鞆 銀鞆糸総東鑑

○巴摺タル貝鞆置糸総ノ鞆カケ盛裏記

野鞆 未詳

○御馬黒鴝毛置鞆野鞆東鑑

纏鞆 愚按絆鞆ハ皆紅ニテ禁断也鞆ヲマトフハ

近世ノ鞆ノ尾バサミトテ尾ノ當ル所ハカリヲ

輝々皮ニテ包ミマトヒシヲ云歟

○紫鞆褥紫龍頭鞆肥緋鞆等皆禁断之纏鞆者不在制限 延喜式彈正式

緋鞆 允参議以上檢非違使別當已下府生已上

緋鞆着ルヲ聽ス 延喜式彈正式

紫鞆 足利殿ノ比マテハ紫鞆ハヨノツ子ノ人用ユ

ル事ノタハス 大諸礼 近世ハカ、ル制モナク上

押搦 下ニ通用シテ紫ノ押搦ヲ用ル事ニナリス

絆鞆 法體ノ人絆鞆ヲ用 鎌倉年中行事

織鞆 或坂東鞆

坂東鞆 ○大カタヒラノ時ハツバラキツツケニオリシ



リカヒヲカケテノルヘシオリシリガヒトハバ  
レドカレリガヒト人ノ申モノ也 宗五記

愚按オリ鞞ハ當世用ル鞞ニテ上総鞞ナルヘキ  
欣

當胃ウチガイ 無子細色目准鞞

厚総鞞 ○塩干浮ノ捨小舟ヲ金貝ニ磨タル鞞ヲ置テ款

青総鞞 フキ 冬色ノ厚総懸 太平記 ○青総鞞 水色鞞同記

水色鞞 連著鞞 ○黒鷄毛ナル馬ニ連ヒビダ弱ノ鞞カケタルハ慥カニ

八郎殿召レタリツル 御馬ニテ候 太平記芳賀兵衛入道軍事

○レンジヤク鞞ノ山吹色ナルヲカケ 曾我物語

胸帯 ○彦太郎カ馬ノ胸ウチガイ帯盡射サセテ是モ馬ハ子ケ

レハ足ヲ越テ立タリケリ 盛衰記公菴介自害

當胸 ○畠山カ兼タル馬ノ當胸ウチガイ盡ヨリ鞞ノ組違ヘ矢

サキ白夕射出ス 同記小坪合戦



鞮頭

○唐韻云鞮音籠漢語抄云鞮頭也音基馬絡頭也  
今按絡頭即鞮頭也 和名抄

○紫鞮頭六位已下禁之 延喜式

○面懸胸懸尻懸ハ或ハ面階胸階尻階是ヲ俗ニ

三階ト云ナリ 自云云オモラトオモカイトナリ  
一物ニアラス

○籠頭ハ夕口革紫革ノ外不可用 鎌倉年中行事

銜

蒺藜銜 辨色立成云蒺藜銜字波良 和名抄

○愚按南都正倉院ニ聖武帝ノモノナリトテ銜

ニロアリウバラクツワ也圖ヲ考ヘシ

輪無銜 飾抄ニ見ヘシ此轡輪ナシ圖ヲ考ヘシ四

伍五位ノ袍文轡唐草輪ナシト云此クツワノ形也

平文銜 飾抄未詳

○愚按惟久ガ畫ニ後三年ノ繪ニ銜ノカバニニ

鞮繪ヲスカシタルアリ又古キ銜ニ桐文スカシ

タルアリ是ヲナルベキ歟又金銅黒塗トカゲ色



白磨

トカゲ色  
黒ヌリ

ナトモアレハ可尋也

○轡鏡

桃花菜葉

○轡ハ白ミガキ本式ノヨシ勢州貞陸相傳候黒

ク塗又トカゲ色ナドニ塗タルハウツクシキ同

人ノクシナシ也又ヲトモヨキ也

射騎秘抄

出雲街 愚按明珍ガ云先祖出雲守宗介ガ作リシ

街ヲ廠覽アリテ玉ノゴトク明ラカニ珍物也ト

勅アリシヨリ明珍ト名乗トイフ今世ノ街出雲

街ナリ宗介カ作リシ形ナルカユヘニ出雲街ト

云ナルヘシ

○出雲街ノ大キナルニ手綱二筋ヨリ合テ乘

盛衰記  
石橋合戦

白磨街 白街

イケヅキトオホシキ馬コソ一騎出キタレ金伏

輪ノクラオカセ小総ノ鞆カケ白クツワハゲ白

アハカマセテト子リアマタ付タリケリ評家物

○黄覆輪ノ鞆置白キ街ニニツ引兩ノ手綱結テ

舎人六人付テ浮島原ヲ西へ向テ引

盛衰記東國  
兵馬揃

○白磨街 庭訓往來

水付

兼鞆辨色立成云兼鞆

○愚按韻書ニ鞆ハ勅也下注シメ又勅トハ馬頭

美豆岐俗云一云七寸抄和名

白轡



貞文云オモカイト  
オモツラハ判ナリ

○銜ヲ絡也馬頭ニ銜ヲマトフベキ物ナレバヲ  
モヅラ也ソノ銜ト勒トノ間ヲ兼ル物ナレハ兼  
鞆ハ則今云手助也兼鞆ニ三都都岐ト和名付シ  
ハ不可也銜ノ手綱ヲ付ル所ヲ今ハヒツテト云  
手綱ヲ通ス穴ヲ水附或ハ手綱付ノ坪或ハ蛇口  
ナドイフ馬ノ水呑ム時此カ子水ニ入故水付ト  
イフナルヘシ鎧ノ神ノ水呑ノ緒ト云類也七寸  
モ水付トヨリ引手七寸許アル故ニヤ又手綱  
ノ両端一尺八九寸許添テ水付ト云モ水付ノ坪  
ニ入ル所ナレハ也源義家朝臣ソノ親父頼家入

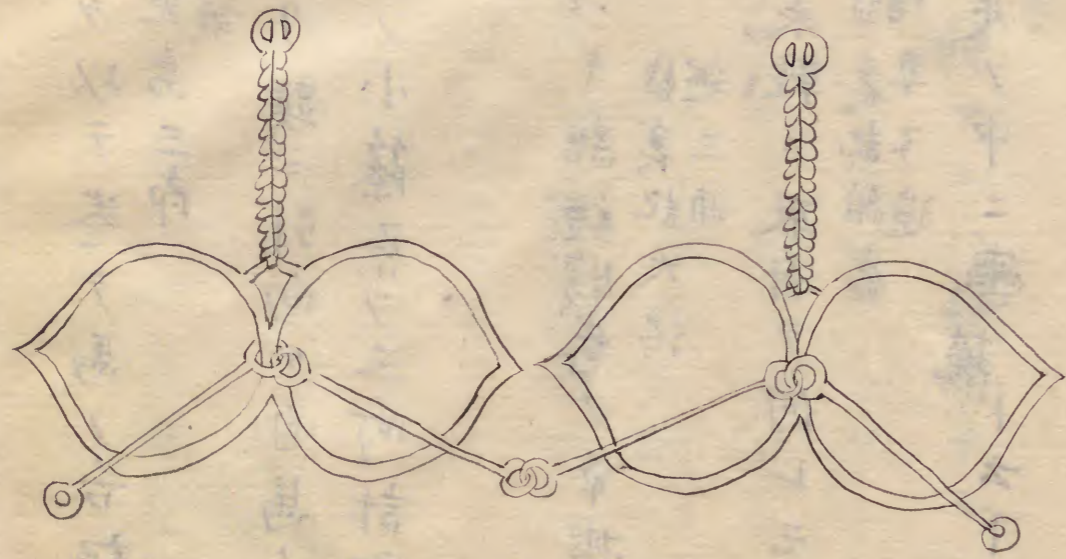
道ノタメニ門鑰ヲトラレテ銜ノミヅツキニテ  
ジヤウアケシ夏古事談ニミヘタリ

○使歸來云只今御着背長ヲ被取出テツラヌキ  
奉御馬ニ被置鞆之間也云頼義サレハコソ怒ヌ  
レハ眉髪上サマニ上也トテ又以使者云ク何事成  
レ修善殘今一兩日也結願之後イカナル事モセ  
ラルヘシトテ門ニジヤウヲ指廻テ藝垣ヲ越テ可  
歸來之由示シテ遣ケリ使如云ク指廻テ鎧ヲ取テ  
歸畢義家聞此由云クラシノ鞆轡ノミツ、キニテ  
アケヨト云テ即アケサセテ打出畢

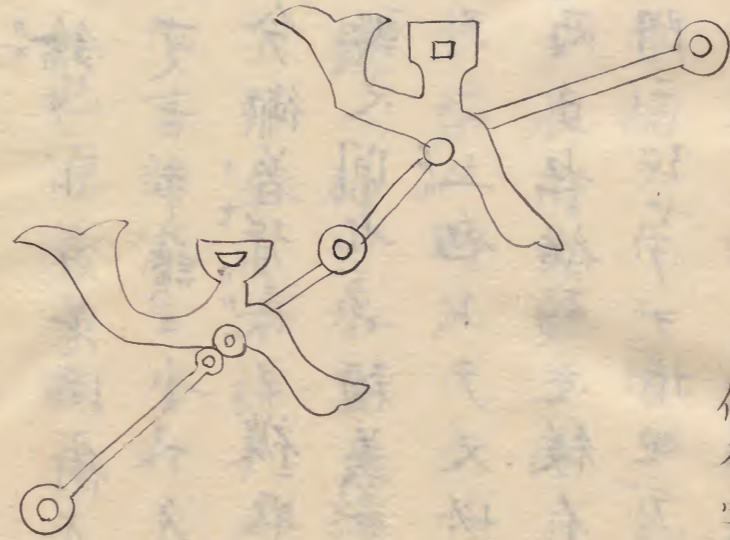
古事談



南都正倉院藏二街口



○玉井轡 尺素往來  
輪無銜之圖 飾抄



○轡くわ 又順倭名三韁くわ 韁くわ  
の輪わありぬくわくわもくわ 刻すくわ  
假名字例



七寸

○其勢皆轡ノ七寸ヲ紙ヲ以テ卷テ馬ノ台根ヲ

結フタリケル

太平記児島三郎  
熊山拳旗

○福間三郎馬ノ口ヲ下リ頭ニ引向ケ自馬手ノ

七寸

七寸ニ付テ小砂マジリノ小篠原ヲ三町計馳落

テ 太平記

ミヅキ

○轡ヲ鳴スナトテミツツキ結鏡腹卷ノ草摺卷

上ケナンドシテ打ケル

盛衰記大沼  
遇三浦

兼轡

○兄弟二人馬ノ左右ノ兼轡ニ取付テ何レモ御

宮仕ハ同シ御変ナリ

盛衰記維盛  
借妻子遺

鏡轡

愚按桃花葉葉鞞具足ノ中ニ轡鏡ト云下見

タリ輪無轡ニ對シテ今ノ鏡アルハ鏡轡ナルヘ

見附考

シ



綿タスキ

愚按惟久カ畫シ後三年ノ繪粟田口法眼カ畫シ  
源義家朝臣ノ像其外古キ武者繪ニ手助付シハ  
ナシ裝束ノ時ハタスケヲ用ヒ戎衣ノ時ハ綿ナ  
シニ直ニ面懸仕懸シ也大諸礼萬秘傳書ニタス  
ケヲハ騎馬ノ時ハスマシキ也タケギノ輪ノ  
切チカヒヨリ大フサヲ入ケキニシカクル也云  
響ノ響鐵ニ切チガヒアルハコノ用也響鐵ヲハ  
綯頭凡面懸凡面懸付凡手助輪凡立聞凡總搦凡  
云也綿ヲ響鐵ニ付ケソレニオモツラヲ付ル工

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



へニ手助トイヒヒキカ子ノ縁ニテタケギ、  
トモ云ナリ

ヲモカイヤスノ

○ヲモガイヤスメナリ人遊覧ニモ不可有之オ  
モガヒヤスメ鞆ウハ帯サシナワ指事馬ノフリ  
ノカミマク有ヘカラス 大諸礼

○馬装束之事馬ハ髪立鞆ハ梨地ニ伏輪取リツバ  
ラ切付ニ房三階拭テアフリハ不差シテ乗ナリ  
又面階ニタスケヲ不付シテ轡ヲ仕付ヘシ 三儀集

鞆

古ヘノ手綱見附考蘇芳アヲ綵紫綵棟アヲ 桃花葉

○大和鞆ニ公卿ハ蘇芳綵四位已下棟綵移鞆ニ  
ハ蘇芳平緒伏組 飾抄

○愚按移鞆ハ唐ノ制ニヨリテ伏組アル平緒ノ  
手綱ヲ用ヒシナリ

○手綱寸法長七尺五寸 大諸礼

○大將出陣ノ時勝色ノ手綱ヲ用ヘシ 勝色トハ  
クロキ色ヲイフナリ 大諸礼

○佐々木四郎高綱ハ生イケツキ倭ニ黄覆輪ノ鞆置白キ  
轡ニ引兩ノ手綱結テ舍人六人付テ浮島原ヲ西



へ向テソ引タリケリ 盛衰記

○大... ○中... ○...

鞭

塗鞭

竹鞭

紫竹鞭

無節鞭

埋鞭

兼和鞞之時用蒔繪鞭用平文之鞞時猶用蒔繪無  
難欣舞人用藤卷鞭馳馬故欣打任テハ鞭可指舍  
人腰而平礼出衣舍人令指狩衣頸紙高官高位之  
人強依不指鞭如此欣淺位之人尤自可持仍此儀  
欣可尋飾抄

紫竹鞭

無柳鞭

○鞭之事公方様ノ御鞭ハ紫竹ノ根也又見附考クマ柳  
塗テトツカラシテ御用アル也クマ柳ノ鞭ノ下  
只ノ人モユルサレメウレハ犬追物ニモ檢見ニ  
モ被持也大心院殿一色殿金仙寺殿何モ御用候



レ備州幡州ノ一ハ不申及但ソレモ細々ハ御用  
候ハス候ヘル 騎射秘抄

犬射鞭寸法

○鞭ノ寸法事左ノカイナヲノベテ我脇下ヨリタ  
ケタカ指ノ先ニアテ、ソレヨリ六寸ニ取テ又  
手一束ニ切ヘレ又六寸ニ分ル云節ヲ半ニ可切ト  
ツカノ長サ六寸先ニ指カケ有ヘシ緒ハ我ウデ  
ニアテ、スヘシサノミツマリタルモワロシ又  
ノビタルモワロシ能程ニスヘシ紫草黒草ニテモ  
スヘシ又色革ニテモクルシカラサル也 騎射秘抄  
○小幡州ヨリ相傳ノ人ノ聞書ニ鞭ノライレキ

トツカハナキモノ也サレハトツカナキモアル  
ヘシ是ハ犬追物ノ時指カケノアル鞭ノ一也鞭  
ハ藤ニテトツカ卷タル也ソレヲ表シテスル也  
又指カケノナキ犬追物鞭ニ有ヘシ又幡州ヨリ  
金仙寺ヘトツカノナキ犬追物鞭ヲ先年参ラセ  
ラレシ也不審ナルヨシ沙汰右シトテ周防ノ國  
ヨリ上洛ノ後見セラレシ此聞書同前又高忠モ  
犬追物ノ時持鞭ニハ必トツカアルヘキト申サ  
レシ 射騎秘抄

○緒ハツマリタルハワロシ馬ヲ打時ニギリニ



指掛

クキ也クツロキタルモワロカルヘシユビカケ  
トテユヒタルカタクノヲサキラオリ返シ結メ  
ヘカフベシ 八廻不入秘事

愚按近世指カケトテ

草ヲ劔形ニ切付テ用ルハ古ヘニハ不聞後世ノ  
物數寄ナルヘシ

熊柳

○ムナハ熊柳ノムナ本也子細在口傳 美人草

○鞭ノ長サニ尺七寸五分也此長サ本也サルニ  
ヨリテ檢見ノ時モ又ヨバ、リツギノ時モコノ  
長サノムナヲ持ヘシニ尺七寸五分ノコトカ子  
ノ定ニモアラス又タカハカリノ定ニモアラス

指掛

我手ノ定ナリニ尺七寸五分ノ内トツカノ分六  
寸也緒トラスアナヨリ上ノ長サ五分ナリ 美人草  
○鞭ノヲノ事ウテハヌキ入ズトモウテノ入  
ホドニユルクトシテ兩方ノ緒ノサキラワナニ  
シテムスヒメヘオシ入ヘシムナスヒニ結フ  
ヘシ 美人草

取柄草

○トツカノカワノ何草ヲモスル也但鹿ノ丸  
ノ皮スマジキ也紫草當世用也トツカノ草ハ緒  
ト別々ノ草ニテハセ又事也ヲナシ草ニテスベ  
レトツカヲモ緒ヲモ糸ニテクケテスル也 日記



竹節數

○何ム午ニテモアレトツカアルベキ本也庭乘ノ時ノ鞭モ又ウツホノ上ナトニサスモトツカヲスヘシ但ナキモクルシカラズ取柄セ又ハ略後ナリ

鞭尺寸

○竹ノ根ノム午ヲ節數ヲ半ニスヘシテウニハセ又事也半ニシテサキラハ節ニツノ間ヨリ切ルニシサヤウニキレハ二尺七寸五分ニシカトハアリカタシ五分三分ノヨリノキハ不苦同記  
○犬射ル時射手ノ鞭ノ下長サハ人ノウテニヨルヘシ我ウデヲスグニサシ出テ服ノ下ニ取柄ノ

方ヲヲシアテタケタカユヒノ尻サキニアテカヒテ又六寸ニトリテ又手一束ニトリテキルヘシ此外ニ寸三寸ヨリノキハ又シノマナリクルシカラス是モ前ニシルスコトク節ヲ半ニ可切同  
○鞭ノ緒ヲウテニスキ入テ持コト犬ノ時トカリノ時ナラテハアルマジキト也又ユビカケノ下犬ノ時ナラテハセ又ナリユビカケヲバムスビタルヲノカタクノサキヲワナニクケテタケタカユビニカクルナリ又カタクノサキヲハ返シテワナニシテ結目へ方シ入ルナリカリノ時



ノ鞭ニハユヒカケセ又ナリ美人草  
○射手ノ鞭ノ緒ヲハイカニモウテニツマルホ  
ドニセバクスル也クツロゲハ鞭打ニクキト申  
キタルナリワビテ又キ入ヨトイフニヤウモク  
アリ美人草

紫竹

○紫竹ノ鞭ヲバタビノ人ハ持マジキナリ御  
所様御持在故也子細口傳ニアリ日記

責鞭

○トツカニハ本竹イヅレニテモスルナリ草  
○セメ馬ノムチハ二尺七寸也心得ハレ大諸礼  
○鞭ノ名ナリ節ヲミナ方口シタルヲハムフシノ

無節鞭

埋鞭

鞭ト云也節ナガラヌリタルヲハウヅミ鞭ト云

鞭指式

○鞭サシヤウノナ主人ハ取柄ヲ腰ニサス小モ  
ノハ取柄ヲウヘヘサスナリ太諸礼

鞭寸

○ムチノ寸法ナレハガヲ在躰ニカキ候テアテガ  
ヒサテアマル所ヲ六寸ト横手ヲキテキル也是  
ヲ六寸ヨコテノムチト云也能心得ヘシ

同

○同寸法ノナ我カ左ノワキノ下ヨリ手ヲ延シ  
ニギリサテ餘ル所ヲ一尺トヨコテヲキテヨキ  
也是ヲ一尺ヨコ手ノムチト云也同ワガアレノ



ウラトコシヲアハセ候テヒガヒアテガヒサテ  
餘ル所ヲハ右ノ一スギノウチ何ナリ其主ノコ  
ノニ次第ニ切ル也 カ秘傳書

○書札ニむち ゆげ ろつが ナドヲカナニ  
書テ可然也馬ノハムチ鷹ノハブチ也同あはち  
のきり いなり 此類モカナヨク候 書札書

ムチサン

○義朝カヘリミ給テアハレ源氏ハムチサシマ  
デモヲロカ成者ハナキカナアタラ兵平買ウタ  
スナ言信ウタスナ 平治物語  
義朝敗地

○腕拭六寸葛蒲黒皮ニテスヘシ中へ麻ヲ入テ

指拭

クケベシ結餘ル所ヲ指拭トイフ長サ六寸廣サ  
先ニテ一寸二分ニシテ先ヲ劔形頭ニ切ヘシ劔  
先ノ長サ一寸劔先ヨリ一寸下ニ廣一寸或ハ一  
寸二分ニ裁目ヲ明ヘシ 山井裁鑑

ヒカワ鞭

○ヒカワノ鞭ト云ハ藤ノ太キヲ以テ塗籠ニシ  
テヒキトウハ巻ヘカラズ是ハ常ニモ持ヘシ 訓  
○鞭 アチ ムチニ訓相通又策馬鷹ニ訓カハルト云  
ハ穿鑿也本來フト書テ ウチ ロニハムト云 般名字例



此處  
 〇下學集云鷹猛惡之鳥也生子在巢其子生長則有  
 食親之義父畏之居去自巢一尺枝養子故呼一尺  
 量鷹秤云傳云不可也  
 〇愚按古諺ニ鞭ノ寸ヲ定ルニ曲尺ノ定ニモア  
 ラスタカハカリニモアラス我手ノ寸ナリ  
 尺ニモアラス鯨尺ニモアラス我が手ノ寸也  
 云一也和名抄ニ辨色立成ヲ引テ尺ハ竹量也  
 波可トアレハ今ノ通用ノ鯨尺ト云モノ也竹ニ  
 テ作りシ故竹ハカリト云今ハ鯨ノ鬚ニテ作レ

鷹秤

下學集云鷹猛惡之鳥也生子在巢其子生長則有  
 食親之義父畏之居去自巢一尺枝養子故呼一尺  
 量鷹秤云傳云不可也  
 〇愚按古諺ニ鞭ノ寸ヲ定ルニ曲尺ノ定ニモア  
 ラスタカハカリニモアラス我手ノ寸ナリ  
 尺ニモアラス鯨尺ニモアラス我が手ノ寸也  
 云一也和名抄ニ辨色立成ヲ引テ尺ハ竹量也  
 波可トアレハ今ノ通用ノ鯨尺ト云モノ也竹ニ  
 テ作りシ故竹ハカリト云今ハ鯨ノ鬚ニテ作レ



ハ鯨尺ト云或云紀州熊野浦ニテ鯨ヲ分故スルニ曲尺ニテ一尺ニ寸四方ニ切配分  
スルユヘレカイヤカイイ鞭ノニモカギラス弓ハ尋ヲ  
以テ定メ矢ハ束ヲ以定ム上古ハ曲尺ト云事モ  
ナク皆已ガカ子ニテ定メレ也神代卷ニ八尋殿  
ナト見ヘレ今ニ至テ内外宮ノ間ヲ定ムル曲尺  
ノ定ニアラスト云左アルヘキ欽民間ノ茅屋造  
ルニ屋中竹ハ膝節ニクウヘテ結ヒタルキ竹ハ  
足ヲフミコシ其父ケニスルナリ布帛ノ類モ田  
舎ニテハ尋ヲ以テ市中賣買スル也匠尺ハ聖德  
太子異國ノ曲尺ヲ用ヒ給フヨリオコリ今テ天

王寺ノ曲尺番匠受傳フル所也

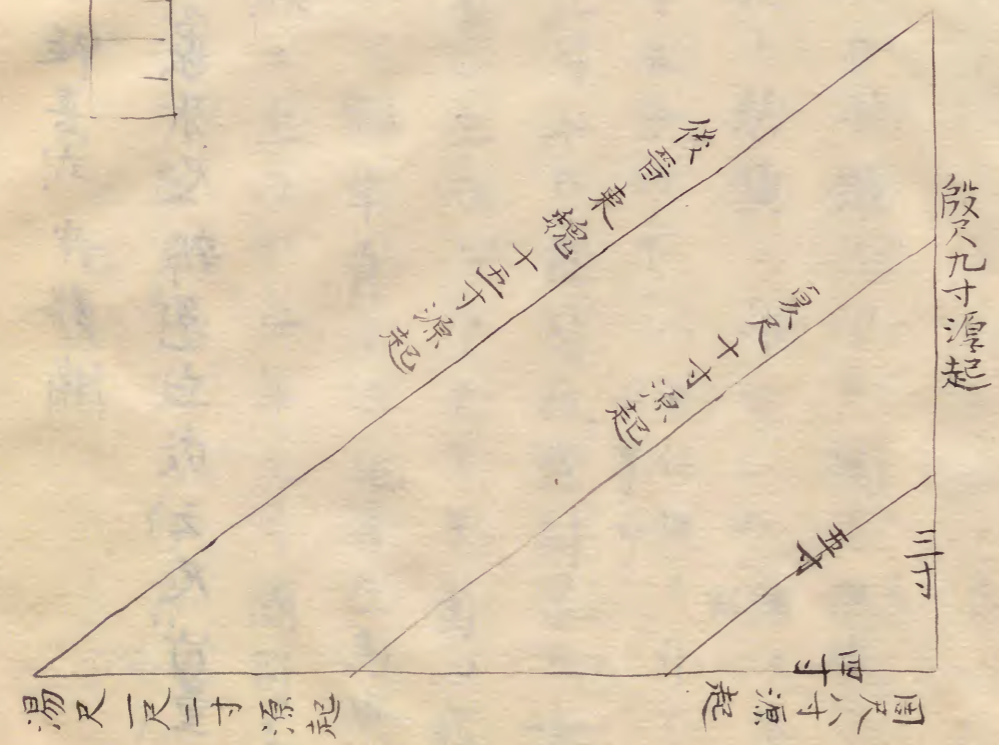
○凡度十分為寸詔度者分寸尺丈計也所謂度長短也今者以北方柜黍中者之廣為  
分柜者十寸為尺一尺二寸為大尺一尺令義解

○愚按竹量ハ一尺二寸ノ大尺ニテ湯ノ尺也吳  
服尺裁縫也一尺一寸五分匠家ノ曲尺此三ハ今通  
レ用ル也鐵ヲ以テ作ル故鐵尺ト云則復ノ尺也  
殷ニハ九寸ヲ尺トシ周ニハ八寸ヲ尺トシ湯ニ  
ハ十二寸ヲ尺トシ後晉東魏ニハ十五寸ヲ尺ト  
ス俗ニモノサシ則竹量ニテ今云鯨尺也今ハ裁  
縫ニ此尺ヲ通シ用也黑黍中ナルモノ一粒ノ廣





殷市尺與後魏後尺同



サヲ分トシテ十粒ノ廣サヲ一寸トセシ也尺ハ三四五勾股弦ノカ子ヨリ出シニヤ周ノ一尺ハ八寸也四ヲ倍シテ四<sup>ニ</sup>八寸ヲ一尺ト定ム殷ニハ三ヲ用ヒテ三三九寸ヲ一尺トシ復ニハ五ヲ用ヒテ二五寸ヲ尺トス湯ニハ四ヲ用ヒテ三四ノ一尺ニ寸ヲ以テ尺トシ後晉東魏ニハ五ヲ用ヒテ三五寸ヲ尺トスル歟

○通推算數ノ下 按蔡邕斷曰夏十寸為尺殷九寸為尺 ○周八寸為尺通鑑外記曰禹十寸為尺 ○湯十二寸為尺 ○後晉東魏比周一尺五寸八



シロチシシカハリ  
 ○鐵尺一隻 長一尺 延喜式中務省  
タカハリ  
 ○尺 魏武雜物疏云象牙尺辨色立成云尺竹量  
 也 太加波 和名抄  
可利

見附考  
馬印

○文武天皇慶雲四年甲子鐵ノ印ヲ撰津伊勢等  
 ノ二十三國ニ給テ牧ノ駒犢ニ印セシム 續日本  
 ○馬牛印二寸廣一寸五分以下 弘仁格ヲ引テ  
 ○諸牧ノ駒ハ毎年九月十日國司牧監別當ト檢  
 印シテ共ニ其帳ニ署シエラヒツナギテ齒四歲  
 已上兼用ニナルヘキヲ明年貢上ス延喜左馬寮  
 ○牧ニアル駒犢二歳ニ至ラハ毎年九月國司ト  
 牧長ト出合官ノ字ノ印ヲ左ノ解上ニ印ス 牧ノ  
解ト 犢ハ右ノ解上ニ印ス 令義解 外ヲ



○或人云ヤキカ子ノヤウ雀目結三ヶ月遠雁三  
目結四目結ニシテヤキカ子ヲアツレハ毛生シ  
テ跡白ク分明ニ見ユルト云

○愚按官印ノ外牧々ノシルシノ印モアリシヤ  
陸奥國七戸立ノ馬鹿笛ヲ金燒ニアテタレハ少  
モ紛ルヘクモナシトイフ下モ見ヘシ足利殿御  
時書札ニ本印<sup>カキ</sup>下印<sup>カキ</sup>ト云下アリ本印トイフハ令  
式ニ見ヘシ官ノ字ノ印ニシテ驛上ニ燒キ下印  
トイフハ牧ノ印サメ結鹿笛ナトイフ類歟未  
詳<sup>見附考</sup>南部家臣服部傳左衛門云某先年牧ノ事勤役

セシ牧馬ニハ其牧々ノシルシアリ 相内ノ牧ノ  
馬ハ耳ヲ矢筈ニ切角谷野ノ牧馬ハ耳ヲ十文字  
ニ切シ也耳ニ穴ヲアケシモアリ昔ハ耳ニ燒印  
ヲイロクセシト云傳フト牧司語ル牧司ソノ野  
ニ至リテ宝螺ヲタツレハ野馬コトククアツマル  
豫<sup>アズ</sup>メ宝螺ヲタテハ塩ヲ飼ヒ度々スレハ宝螺  
鳴レハ野馬共集ル也朝鮮國ノ馬耳ヲ割シアリ  
天和來騁ノ時或人間シニ息合ノタメニ切ルト  
答フ信シカタシ彼國ノ馬ハ春ハ草ニ付テ野ニ  
放トイヘハ是モ印ニ切シナルヘシナンソ耳ヲ



サキテ息合ニナルヘキ鼻ヲサキシアリ是ハ鼻  
アラシテ吹ケハ関キ大キニ赤ク見ユル是ニ餘  
情ナリト云

○生<sup>イラヅキ</sup>啼トハ黒粟毛高カ八寸太ク逞カ尾ノ前キ  
少白カリケリ當時五歳猶イテクベキ馬也陸奥  
國<sup>立ノ</sup>鹿<sup>立ノ</sup>笛<sup>立ノ</sup>ヲ<sup>立ノ</sup>金<sup>立ノ</sup>燒<sup>立ノ</sup>ニアテタレハ少モ紛  
ルヘクモナシ馬モ人モクヒケレバ生啼ト名付  
ク盛衰記東國兵馬揃

○馬ヲヨソヘ遣<sup>ツガ</sup>シ候狀ニ毛<sup>ケツケ</sup>付<sup>カキ</sup>印<sup>カキ</sup>付<sup>カキ</sup>ナトノ<sup>カキ</sup>常  
ノ如ク可書或ハマヅオロシカ子シユミ<sup>カキ</sup>ト<sup>カキ</sup>ラヒ

ナト或ハソヘ狀ニ可書<sup>見附考</sup>本<sup>カキ</sup>印<sup>カキ</sup>ヲ書テ同<sup>カキ</sup>下<sup>カキ</sup>印<sup>カキ</sup>ヲ書  
ヘシ太刀ナトモ同前<sup>カキ</sup>彦<sup>カキ</sup>間<sup>カキ</sup>田<sup>カキ</sup>鏝<sup>カキ</sup>須<sup>カキ</sup>弥<sup>カキ</sup>足<sup>カキ</sup>井<sup>カキ</sup>ナト一  
段ノ<sup>カキ</sup>一<sup>カキ</sup>ヲ<sup>カキ</sup>バ<sup>カキ</sup>内<sup>カキ</sup>狀<sup>カキ</sup>ニ<sup>カキ</sup>モ<sup>カキ</sup>ノ<sup>カキ</sup>ス<sup>カキ</sup>ヘ<sup>カキ</sup>キ<sup>カキ</sup>ナ<sup>カキ</sup>リ<sup>カキ</sup>又<sup>カキ</sup>ウ<sup>カキ</sup>ヤ<sup>カキ</sup>マ<sup>カキ</sup>フ  
方<sup>カキ</sup>ヘ<sup>カキ</sup>ハ<sup>カキ</sup>雲<sup>カキ</sup>雀<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>黒<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>青<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>ナ<sup>カキ</sup>ド<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>ト<sup>カキ</sup>云<sup>カキ</sup>字<sup>カキ</sup>ヲ<sup>カキ</sup>書<sup>カキ</sup>キ<sup>カキ</sup>申<sup>カキ</sup>  
スベシ常ハ黒青雀<sup>カキ</sup>雀<sup>カキ</sup>ナト、書也御馬一<sup>カキ</sup>足<sup>カキ</sup>印<sup>カキ</sup>付<sup>カキ</sup>

宗五記

○凡<sup>カキ</sup>葦<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>青<sup>カキ</sup>雲<sup>カキ</sup>雀<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>木<sup>カキ</sup>性<sup>カキ</sup>馬<sup>カキ</sup>鹿<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>栗<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>火<sup>カキ</sup>性<sup>カキ</sup>馬<sup>カキ</sup>霞<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>  
駁<sup>カキ</sup>土<sup>カキ</sup>性<sup>カキ</sup>馬<sup>カキ</sup>鷄<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>佐<sup>カキ</sup>目<sup>カキ</sup>昏<sup>カキ</sup>色<sup>カキ</sup>金<sup>カキ</sup>性<sup>カキ</sup>馬<sup>カキ</sup>河<sup>カキ</sup>原<sup>カキ</sup>毛<sup>カキ</sup>黒<sup>カキ</sup>水<sup>カキ</sup>性<sup>カキ</sup>馬<sup>カキ</sup>  
俱<sup>カキ</sup>自<sup>カキ</sup>奥<sup>カキ</sup>州<sup>カキ</sup>閑<sup>カキ</sup>伊<sup>カキ</sup>郡<sup>カキ</sup>到<sup>カキ</sup>来<sup>カキ</sup>其<sup>カキ</sup>金<sup>カキ</sup>鹿<sup>カキ</sup>笛<sup>カキ</sup>北<sup>カキ</sup>方<sup>カキ</sup>飛<sup>カキ</sup>雀<sup>カキ</sup>南<sup>カキ</sup>方<sup>カキ</sup>此  
内<sup>カキ</sup>羽<sup>カキ</sup>折<sup>カキ</sup>雀<sup>カキ</sup>小<sup>カキ</sup>雀<sup>カキ</sup>殊<sup>カキ</sup>可<sup>カキ</sup>有<sup>カキ</sup>御<sup>カキ</sup>賞<sup>カキ</sup>既<sup>カキ</sup>候<sup>カキ</sup>其<sup>カキ</sup>外<sup>カキ</sup>庵<sup>カキ</sup>下<sup>カキ</sup>二<sup>カキ</sup>遠<sup>カキ</sup>雁



文文字有文字引兩九等纒以一匹之蓋可播六龍  
之德候大輪違者彦間位庵一方者御所之御牧候  
別而可省秘藏子尺素律束 日復繁為案此多  
桑の解文小々雀目結とあり

○多久佐里之本牧兩三足候須弥足井邊并肢凡地  
拘所晉干馬候尺素律束

瓠ヒヤク

俗ニ馬ノ額一点白キヲ月額或ハ星額トイフ鼻  
ノ上へ長ク白キヲシヤクト云トナカレ星上下九  
ク長キヲ筭シヤク下唇へカレハ十カレシヤ  
ク下ノヒラキタルヲハ位牌シヤクトテ嫌フ也  
愚按シヤクトイフハヒシヤクノ花ニ似テ白キ  
ト云コトナリ京談ニヒシヤクヲシヤクト云十  
リ佐奈田与一ガ乗タル馬ハ白葦毛太逞ガ七寸  
ニ餘リテ鼻ノサキ瓠ヒヤクノ花ノコトク白カリケレ  
ハ名ヲ夕ヒヤク貌トイフ東國一ノ強馬ナリ

盛衰記  
石橋合戦



今モ瓢ノ中ニニガビシヤクト云モノアリテヒ  
シヤクニ用ルナリ尺ト書クハヨリトコロヲ知  
ラス

○杓コサコ附瓢ナリサコ唐韻云杓音与酌同和斟水器也瓢符窞反  
和北和北瓢也音与匏也薄交反可為飲器者也和名抄

堪乘カシヤウ

俗ニ岩乗ニ書ハ不可也愚按令義解ニ凡牧馬應  
堪乗用者皆付軍團トイフ註ニ體骨強壯稱乗用  
ニ堪エベキモノ也是ヲ兵馬ト名ツクヨシ見ヘ  
タリ四歳マテハ駒トイヒ五歳ヨリガシヤウ  
ト云フハ四歳マテハ乳ノ之齒アリテ五歳ニナ  
レハ乳ノ之齒ヲオトス故ニ強壯トイフ節骨丈  
夫ニナルカユヘニ兵馬ニ用ユルナリ今俗ニハ  
岩乗ト書クナリ



馬甲ウマカウ

○具裝者馬甲也 令義解 按スルニ馬甲ハ夫ヲ  
フセグノミニハアラズ敵ノ馬ヲ威シ狂ハスル  
タメナリ

○四國九國ノ精兵ヲ集置タルノ誤アヤクシスナ楯ヲ重子  
馬ニ甲ヲ可カ著ス無執ニシテハ悪カリナシ 盛衰記景時  
景高入城

○称津小次郎フスベ皮ノ鎧ニ同シ毛ノ由ヨ著テ  
七ツ物山ノ如クニ 太平記ニ三ツ物ト云哉 トリ附テ鹿  
毛ナル馬ニ馬ヨロヒカケ 異本太平記  
笛吹峠軍

○塩津黒トテ五尺三寸有ケル馬ニ鏢ノヨロヒ

掛サセテ

太平記知六郎  
左北門守

○一色左京大夫栗毛ナル馬ノ八寸ニハヅレダ  
ルニ白覆輪ノ鞍置テ金鏢ノ馬鎧カケニソ乗々  
リケル 明德記

○及合戦前ニ馬ヨロヒカクル事ト前々無之殊更  
供奉ノ時不可カ掛ケ之 鎌倉年中行事







鐘

幕內幕

暖簾幕

幔

幄

幌

長刀

鎗

石弓

弩

火矢

鉄炮

石火矢

楯

引敷  
敷皮

笠

履

浅履

靴

半靴

毛沓

棲足袋

頬貫

沓子

襪

馬上沓

草皮履

乱緒

草鞋

絲鞋

麻鞋

鎌足袋

麩釘

尻切

下下

鞆子

半物草

金剛

裏無

深沓

コシズ

柿鞋



見附考

米拜

日下部景衡集

愚按本朝ノ米拜ハ白紙本式也軍神勸請ノ幣ニ  
 テ指麾セシ歟近世ハ將軍ハ朱ノ米拜ヲ下ノ  
 物頭物奉行ニ至マテ白紙ノ米拜ヲ免許ノ例ニ  
 ナレリ今ノ米拜ノ制ハ軍家ニツマヒラカナリ  
 紀伊国南龍院殿吉川惟足ニ我家ニ珍ラシキ幣  
 アリ長サハ尺許軍ノ時馬ノ先ニ可持ノ物ナリ  
 トテ太神君給シ如何ナル物ニヤト仰有リシ  
 ニ惟足不知由答フ其後都ニ上リ故萩原へ此コ  
 トヲ詔リシニ萩原近マリ知リ不給是軍神勸請  
 ノ幣ナリ故ニ位殿ノ制ニテ太神君へ被為參  
 ニ可成ト被仰シト云

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 米拜, 白紙, 朱, 萩原, 位殿, 被仰]*



白幣

○武衡北条殿父子盛長茂光實平以下三百騎ヲ相  
卒ニテ相摸國石橋山ニ陣ス此間件ノ令旨ヲ以  
テ御旗ノ横上ニ被付中四郎惟重持之父ノ頼隆  
白幣ヲ上箭ニ付テ御後ニ俟ス云々東鑑

朱米拜

○永祿三年五月公方義輝公へ御礼關東管領職御  
免ノ御朱印并朱ノ御朱拜ヲ賜ヒ御諱ノ一字ヲ  
被下政虎ヲ輝虎ト改給フ然レトモ御底意有テ  
御断被仰上永祿五年マテハ政虎ト被名乗ナリ

管親武鑑上  
松家記録也

○坂東八平氏ト云ハ三浦上總千葉北条大庭常陸  
大極秩父葛西ヲ申スナリ是ハ頼朝ノ頃ヨリ尊  
氏ノ時分マテ有シ其後戦國ニテ悉ク滅レ尊氏

將軍ノ時代ヨリ永祿ノ頃マテ八家ト云屋形在  
那須結城千葉小山小田字津宮依竹里見ヲ八家  
ト申ス是ハ公方家ヨリ朱米拜并ニ屋形ノ号ノ  
御免アル故ニ八家ト申スノ外ノハ屋形ト不  
申東海道ニテハ古良今川近江ノ佐々木六角中  
国ニハ大内今大伴コノ外ハ上代ニハ屋形トハ  
イハス近代小田原ト甲列ト中国ノ毛利元就ニ  
屋形号御免成ルナリ屋形号無レハ正月家中衆  
○烏帽子ニテノ出仕ハ不成ナリ小田原紀  
○ソノカニ新羅三郎義光へ御父頼義將軍ヨリ義  
○光ノ三番目也トイヘ凡武邊譽レ有故天子ヨリ  
旗具是ヲ賜ル某モカイハイヲユルサレトテ頼



義則朱ノサイハイヲユルサレ玉フ 甲陽軍鑑

○朱米幣ヲタツトフ事ハ朱色ハ火鉢ニシテ兵法

ニ別シテ貴故ニ奉大將是ヲ可持致ス也 神武雄

幣 和訓ニギラ又神樂採物ニミテクラト訓ス

見附考

扇 佐竹四郎自常陸国追参テ加ル而佐竹カ所令持之旗無

文ノ白旗也ニ品令召之給与御旗不可等之故也

仍賜御扇一册於佐竹可付旗上之由被仰 東鑑

○扇一揆秋山新蔵人五枚曹ノ緒縮鉄形ノ間ニ紅

ノ扇ノ月日出シタルヲ不残開テ夕陽ニ耀カシ

テ太平記

○内裏ニテ義朝兵共ノ中ニ打立紅ノ扇ニ日ヲ出

シタルヲ聞キ使 保元平治参考

足利又太郎忠綱末孫佐野天徳寺宗綱軍扇ノ長

サ一尺二寸表總銀裏ハ浅黄ナリ出ル日ニ入月

トハ日ハ赤ク下ヘヨセテ月ハ白ク上ヘヨセテ

置クヘシ日月ノ寸法三寸五分骨ハ十五本コレ

八幡大菩薩ノ形像ナリ武者物詰抄

○八幡殿御軍扇長サ一尺一寸骨十二本大骨ニ銀

形ノスカシ有表雲母地薄紅日徑四寸金裏雲母

地銀月徑四寸丸要ニシテ中ニ穴有腕貫ヲ通 古新田

○寸法ハ常ノ扇ノ如シ別ニ習ナシ面ヲハ朱 後岡家藏

金ノ日輪ヲ出シ片面ヲハ地ニメ朱ヲ以テ日輪

ヲ出ス朱ウルニテ是ヲ塗り漆ニテ箔ヲ置也



兩ニ濡レテモ不損為ナリ要ハ九要ニシテ中ニ  
免ヲ明テ腕貫ヲ通ス也雄鑑抄

○故高倉院嚴嶋へ御幸ノ時三十本切立テ明神ニ

進奉アリ皆紅ノ日出タル扇也平家都ヲ落給シ


トキ嚴島へ社參アリ神主佐伯景廣此扇ヲトリ

出シ是ハ一人ノ御施入明神御秘藏ナリ日ハ故

院ノ御情帝業ノ御守タルヘシサレハ此扇ヲ持

セ給タラハ敵ノ矢還テ其身ニアタルヘシト祝

言シテ被進盛衰記

扇ノ骨ノ透シニ  如此透シタルヲ子コマト

云千ウケイノ扇ハ猫間ノ中將ノ初テ作レル也

云也林六郎光明カ郎等ニ六動太郎光景ト云者

一 皆紅ノ扇ニ月出シタルヲ披キツカヒテ坂

上ノ利仁公ヨリ六代ノ孫加州ノ住人林六郎先

明カ嫡子今城寺ノ太郎光平ト名乗テ 盛衰記  
齊明墓目射

○御曹司ハ武キ車カラモ優ナル詞ヲモ感シ給ツ

ワ皆紅ニ日出シタル扇ヲ以鷲尾ニ夕ビ是ニテ

敵ヲ招キ高名仕レ勲功ハ氣ニ可寄 盛衰記

當時ノ扇ハ日本ニテ造始ル也蝙蝠ノ羽ヲ見テ

學之ト云ヘリ故ニ其形蝙蝠ノ羽ニ似タルナリ

爰ヲ以テ源氏ニハ扇ヲカハモリト云也其比ハ

○扇ヲ以テ傳行ル蚊ノ目ニモ御前ノ夕之モ 盛衰記落  
行今歌



見附考

團扇

太泰興隆寺寶物也寺僧傳テ云聖德太子可

持軍配也崇峻天皇元年秋七月蘇我馬子宿禰大

臣勸請皇子与諸臣謀滅物部守屋ノ大連率軍旅

進大連此時太子以軍配拒箭也今抹板ヲ箭除為

護守其製ナメシ草ニ牧ヲ以テ作ル邊手ニ柄ヲ

挾所ヲ草ヲ以テ縫コト鞠ノ腓皮ノコトシ草ノ

色今ハ粟色ノ如シ一面ニハ朱漆ヲ以テ日ヲ繪

キ雲ヲ色トリ繪ク一面ニハ朱漆ヲ以テ輪銚ヲ

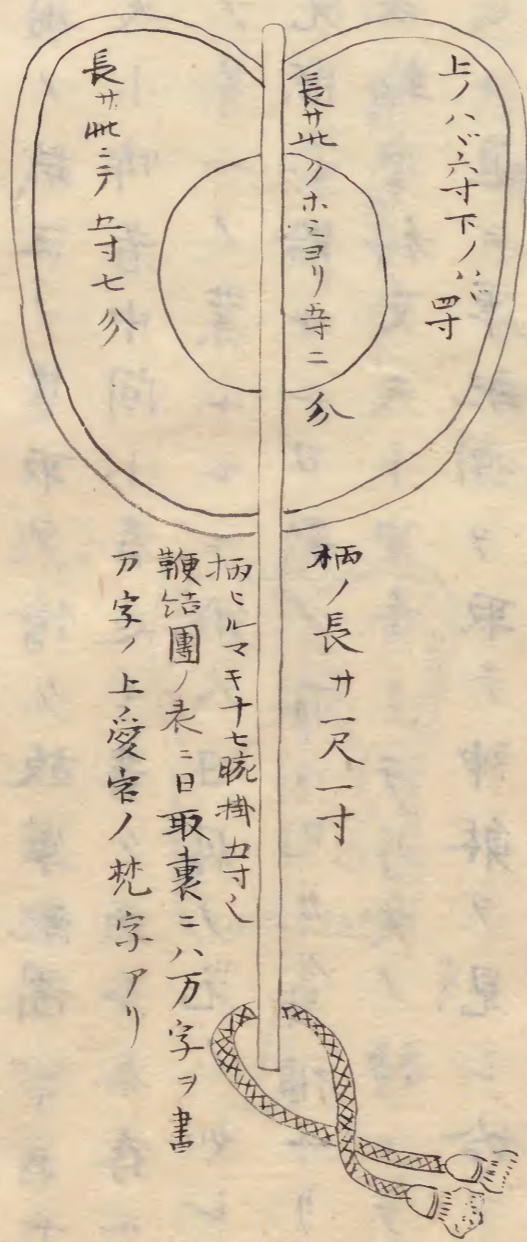
繪ク柄ノ長サ一尺一寸鉄ヲ以テ作廣サ一寸厚

サ一分ニ弱シ猪目有羽ノ長サ九尺六寸六分總

長サ二尺六分

○小山政種團ノ図下総国小山天王院ニ有之ヲ写

ス團柄トモニ総金



團扇立八寸横ノ廣サ上九寸中七寸三分下七寸  
二分柄ノカシラ三分出之長一尺一寸二分是ハ  
公方管領屋形ナトノ御所持被成御團扇ノ柄ノ  
寸法也平人ノ團扇ハ柄ノ長サ八寸二分可成臣



下ハ五分半ヨリ上ニ腕貫ノ穴明ル也廣サ四分  
 半可成團扇ハ練物ニテ作之柄ハ勝軍木ヲ用也  
 但鉄ヲ以テ作之車モ有之將ノ好次第可成雄鑑抄  
 右之團扇ハ武田新羅三郎所持ノ團扇ノ図也ト  
 云云師鑑抄ヲ按ルニ團扇ノ中ニ廿八宿ノ日取  
 或ハ周ノ武王ノ日取ヲ繪ク故軍配團ト云ナリ  
 諸侍大小悴者中間小者迄モ普ク過分忝存ルハ  
 大將ノ弟一ノ業ナルニ從ハ日月ノ光ノ如シ日  
 光月光照シ給十二日歎ノ有ハ己カ貧福ナリ無  
 私ヲ日輪摩利支天ト申奉リテ弓矢ノ神ニテマ  
 シマセハ直ニ軍配團ヲ取テ神躰ヲ見シ給フモ  
 私ナキヤウニトノ戒也 甲陽軍鑑

○江州蒲生郡大慈恩寺所藏ノ佐々木盛綱像所持  
 軍配之図 傳云氏綱画

縁ニ日取ノ星有テ中ニ  
 図ノ如ク破軍星アリ



見附考

印目 俗ニ猪目ト書ハ誤レル也武器ニ印目ヲ用  
 ルハ印相ナリ印ノ字ハ子ズニイト讀ヘシ吾国  
 ノ古言ニハヌル声ハナシハスルハ声ノ字也真  
 言ニテ両手ノ大指ト大指人指シユビト人指シ  
 指ヲ合<sup>○</sup>如<sup>○</sup>是印相ハ則日輪ノ印相ニテ摩利支  
 天ノ印也故ニ武盃ニ用ル也甲陽軍鑑ニ譬ハ日



月ノ光ノ如シ日光月光照レ給ニ日影ノ有ハ已  
己カ貧福也無私ヲ日輪摩利支天ト申奉テ弓矢  
ノ神ニテマシマセハ直ニ軍配團ヲ取テ神躰ヲ  
顯レ給フモ私ナキヤウニトノ戒也

見附考

白膠木 愚按ニ礼家ニテ矢入ノ蕪矢米拜串軍扇  
ノ大骨ニ用ヒ白膠ノ脂ヲ旗幕母衣等ノ針留ニ  
付ル皆勝軍木ノ謂ナリ靈雲寺義山比丘ノ云諸  
宗護摩ヲ修行スルニ白膠木ヲ用ルハアヤマレ  
リ平時ハ杉ノ木ヲ用ルコト也其修スルコトニ  
ニ隨テ木モ変レリ炉モ四角有三角有九キアリ  
飯櫃有惡魔降伏ノ護摩ニハ炉モ三角木モ白膠

木ヲ用ルト云サレハ後世武吞ニ白膠木用ル敵  
ノ調伏スルノ謂歟尤勝軍木ノ祝詞モ有也

○律ノ中ニ云白膠木勝怨靈木云云又勝軍木太子傳曆

○用明二年秋七月太子蘓我馬子シタカヒ物部弓

削守屋ト稻ノ城ニ戦フ太子利アテサル時髮額

ヲツカ子テ軍後ニアリ白膠木ニテ急ニ四天王

ノ像ヲ造リ頂髮ニオキ誓祈ル馬子マ夕誓ヲ起

シテ守屋ヲ射殺ス云云神社考

○標スルテ陸詞切韻ニ云標勅居ノ切和名惡木也辨色

立成云白膠木和名抄

見附考

太鼓 近代之太鼓ハ唯鑑抄ニ詳ナリ畧之



○或書ニ曰太鼓ニ巴ヲ畫更ハ天子ハ太鼓ハ龍ヲ  
 画故ニ人臣ニ下テハ龍ヲ倅テ水ヲ画其形ヲ以  
 スルニ巴ヲ以表トスト云云愚按ニ鞞繪ヲ水也  
 ト云ハ誤レル也鞞繪ハ火ノ形也孫子軍爭篇ニ  
 其徐如林侵掠如火トアレハ火ノ文ヲ画打之進  
 也鞞繪ノ丁高鞞ノ條下ニ詳也又太鼓ノ烽火ト云  
 ○日本書紀神功皇后紀三韓退治ノ時金鼓アリ  
 ○太鼓法螺貝十計コノ籠タリケレ盛衰記  
 ○阿波国住人新居紀三郎行俊當鼓ノ上ニホリ  
 責鼓ヲ打旬ケリ盛衰記  
 ○一万餘騎北黒坂南黒坂引廻レ時ヲ作り太鼓ヲ  
 打法螺ヲ吹木ノ本萱ノ本ヲ打ハ夕メキ墓目鎬

射上テトバメキ懸リ夕レハ山彦答テ幾千万ノ  
 勢氏覺ヘサリケリ盛衰記  
 ○凡私家不得有鼓鉦謂鼓者皮鼓也鉦金鼓也笏笏者二大ノ笏其装大角少角及軍幡  
稍大ニ尺牙也貝裝者馬甲也唯樂鼓不在禁限軍將  
兵ヲ所載曰軍幡  
 解令義  
 ○御曹司下知シ玉ヒケレハ大勢思々ニトバノキ  
 ケレハ打紛レテ聞ヘガリケレハ平等院ノ御堂  
 ヲリ太鼓ヲ取寄櫓ノ下ニテ打ケレハ大勢静リ  
 何更ナラント鳴ヲシツム盛衰記  
籠頼義徑京入

見附考  
 寶螺  
 午手經云若為石呼ト  
 天善神者當午宝螺一切詰



○那智新宮大衆軍ニ勝テ貝鐘ヲ鳴シ平家運頌源氏繁昌ニ可給軍始ニ神軍シテ勝タリトテ悦フ時三度返ヲ造ケル 盛衰記

○軍ハ勝ニノルニシカストテ三院ノ大衆貝鐘ヲ鳴シ金堂ノ前ニ會合 四院三井寺合戦

○太鼓ヲ打法螺ヲ吹木ノ本萱ノ本打ハタノキ 盛衰記

○貝吹テ逃ルヲ追 盛衰記

○伊藤ノ二郎貞ト云フ貝ヲ取出シ此貝ハ日本三番ノ貝トテ院へ参セタリニ公家ニハ貝ヲ用ナキ事ナレハ武家ニ被下太郎貝ヲハ秩父ニ被下ヒサゲ五ツゾ入ケル二郎貝ヲハ三郎ニ被下新介給ツテ土肥二郎ニトラスル天上ヲユルサ

レタル器トテ秘蔵シテ持ケルヲ折節河津三郎尊ニ成来リシヲ引出物ニシタリケリウテハ己レ取ニシテ外ハ梨子地ニ蔭テ磯ナリニメヲリシタリヒサゲ三ツ鈿入ケル 曾我物語

○相摸大山ニ学善坊ト名付山伏薩摩ト号シ大貝一ツ持タリ此山伏ヨリ外吹者ナシ五十町ハ例ユル氏直出陣ニハ大山寺ヨリ此山伏旗本ニ在テ貝吹此条五代記

貝目利 ○或曰貝ノ厚キハ男貝也薄キハ女貝也雄貝ハ重シ雌貝ハ軽シ ○口ノ外へ開キタルヨシ内へツホミタルハ悪シ ○ヒ声ハ山ヲハ通セ凡軍ニハ不吹臆氣ノ音也



○口ヲ白銀ニテ張リ上ニ紅ノアミヲカケ緒ヲ付  
 テ吹者ノ肩ニカケ吹也別ニ作法ナシ  
 伊シハ子細ハ口カ子漆ニテ候ハルト  
 故ニ幸ヲカク下多シハナレハト唯ラハ  
 スリテウルクニテ有此故ニ思シト云也  
 雄鑑抄

將軍家御貝式



見附考

鐘 雄鑑抄ニ別ニ作法ナシ常ノ鐘ヲ用ト云  
 ○那智新宮ノ大衆軍ニ勝テ貝鐘鳴シ源平盛衰記

○軍ハ不<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>兼勝トテ大衆貝鐘鳴シ同記

○世尊灵鷲山ニテ説法ノ時聴衆ノ輩遠トナクニ  
 度ニ告知ラシメシ為佛弟子相議シテ是ヲ鑄サ

シメル其起ハ龍宮ノ風情ヲ学ヒタルモノ也訖  
 王事有テ諸莫ヲ時ヲ時鯨鯢ニ余シテ蒲窠ヲウ

タシム其聲遠近ニヒキテ諸鱗ハセ来ルナリ  
 蒲窠ト云ハ海中ノケタモノ也頭ハ夜及ノ如シ

後代ノツリカ子ハ其カタチ也鐘ノ頂ヲ龍頭ト  
 云ハ取違タルニヤ龍ノ頭ニアラズホロウガ頭

也又鐘ヲ昏鯨ニ 鯨ナト云ヘル是モアママリ



ナリ 鯤ハ 鐘木ヲ イヒテ シカルヘシ 鯤カ 蒲罕ヲ  
 打心ナリ 公方 義満 公北山 殿へ 横川ノ 道尋僧正  
 ヲ 召テ 鐘ノ 由来ヲ ツ子ノ トキ 仙書ヲ 引テ カマ  
 ウニ 返答セラレケルヨシ 古キ 物語ニ シルセリ  
 世ニ 此ノ ハレヲ 知人マレ也 藤原行定説  
 幕 凡 兵士 毎 火 紺布ノ 幕 一口 著 裏 銅ノ 盃 小釜 隨  
 得ニ 口 鋏 一具 剉 碓 一具 斧 一具 小斧 一具 醫 一具  
 鎌 二張 鉤 一具 毎 五十人 火 鎖 一具 熟艾 一斤 予 鋸  
 一具 毎 人 弓 一 張 弓ノ 弦 袋 一口 副 弦 二 條 征 箭 五  
 十 隻 胡 蒜 一 具 太 刀 一口 刀子 一枚 礪 石 一枚 藺 帽  
 一枚 飯 袋 一口 水 筒 一口 塩 筒 一口 脛 巾 一 具 鞋 一  
 對 西 皆 令 自 備 謂 緋 布 以 軍 防 令 義 解 下 私 備 也

○古事記ニ 大雀命ノ 宇遲和紀郎ト 心ヲ 合給フヲ  
 大山守命ヲ 殺シ 給フ 奈ニ 惟幕ノ 二字アリ 日本  
 紀景行帝紀ニ 惟幕ノ 字アリ 又 齊明帝 二年 條 餌  
 幕トアリ

○依々木三郎盛綱持 末大幕 纏 景康 壞持 退去 則 歸  
 宿所ニ 加 療 養ラ 東鑑

○幕布ノ 長サ 二丈三尺 乳ノ 間 一尺二寸 ナワマゼ  
 マゼナラハ 乳モ 交々一色ナラハ 乳モ 一色也 幕  
 串ノ 長サ 一丈五寸 先キリコヒチハ 一尺サケテ  
 打地ヘハ 二尺ハカリ 敷一條ニ 六本 體源抄  
 ○大庭ニ 大幕引 其中ニ 鞞置馬 四五十匹ハカリ 引  
 立夕リ 盛衰記



○或曰長三丈ヲ五歩ノ幕ト云三丈六尺ヲ六歩ノ  
幕ト云四丈二尺ヲ七歩ノ幕ト云  
○雄鑑抄云幕ノ罽ノ車十二月敷ヲカタ取テ十二  
端也ニ今陰陽ノ幕トス六疊ノ内一幅ヲ取テ  
三ニワリ三縹ニ左繩ニナヒテ手繩ニスヘシ是  
天地人ノ三才ニカタトル故也サレハ白色黒色  
青色也白ハ天ノ清スル形黒ハ地ノ濁レル色青ハ人  
ノ形ヲ表スル故也扱残五端ヲ幕ニ可仕立是則  
五行ヲ形取也幕ノ長サハ大小中有本幕中幕小  
幕也是ヲ七歩六歩五歩ノ幕ト名付三牀ノ幕ト  
云也大幕ハ長サ四丈二尺中ハ三丈六尺小ハ三  
丈也其將ノ好ニヨリ是ヲ可仕立也

手繩長サ五歩ノ幕ハ四丈五尺六歩ノ幕ハ四丈  
八尺七歩ノ幕ハ六丈三尺也前ニ記ス如ク三色  
ニノ三縹ニ左繩ニナヒテ用之但ヒ夕白ノ幕ニ  
ハ白キ手繩付ル車モ可有之私云手繩ノ五其幕  
マール所是六尺五寸ニモ乳ノ数天ノ世八宿ヲ表ス  
ル故ニ世八乳ヲ付也但乳ヒトフ重テ世七可付  
是ハ日本ニテ午宿ヲ除テ世七宿ヲ用未故ナリ  
私云幕ハ其長十カキ故世七是奉九曜ト云ハ世七歩  
一尺也乳長廿五寸二分也総長一尺四分廣一寸  
二分也軍鑑ノ数日月貪臣祿文廉武破トテ九ノ  
可有日月ノ物見ハ天ノ罽ト次ノ幅ノ間ニ羽ル  
各一尺二寸扱其次ニ三共下ニ四ヲ合テ九也勝



幅ト芝打ノ罽トノ間ニハ明サル也物見廣八寸五分私云物見ヲ明ト上ニ四ツ西ノハシ一尺ニ寸ツ其間ニ文祿ノ物見ヲ明ル其次ノ幅ノ間ニ三臣廉破其次ニツ貧武ノ物見ナリト云云是一説也縫目草ノ下藍草ノ先ヲ劔形ニ切テ物見ノ跡先ニ付ル紋ヲ出ス下嫡子ニ男其差別有嫡子ハ紋ヲ天ノ幅迄懸テ書ヘシニ男ハ天ノ幅ヲ残シ芝打ニ可書夫ヨリ度子ハ天ノ幅迄打西幅ヲ残シ中三幅ニ書之ト云救ハ三所五所其人ノ好ニヨリテ可付私云幕ニ欲出下本説ナレ本後ハヒタシ是故ト云然尾公方家御幕混白成改各紋ヲ出故ニ本説ナレト云是ノ如ク幕串ノ車トシボウ頭下角ヨリ衡木ノ同三才幕ノスノト地ノ上下ノ間六寸宛木ト摺トノ間ハ布ノ幅ニヨルヘキ也地ニ入今ハ一尺二寸也串救行幕ニ四本宛一端ニ合テ八本有ヘ

シ幕ノ五ツ串ハ四ツ豎五横九字ヲ表ノ故也方角ハ一寸宛積リ八角ニケツリトレホウ頭ニシテ墨ヲ引黒漆ニテスリ地入ヲ鉄ニテ張用ル也幕串共幕ツクレ云也木ハ勝軍木用レ之ト云幕箱ノ寸法豎二尺八寸横三尺六寸高廿幕ヲ入ル積ヲ以テ可作之内幕或書曰首ハ箔ヲ以テ色ヲ大形淺黄又ハ餅或薄柳ナト立交ニモ作ル也近代ハ金襴純子又ハ布等ヲ用畧様也幅ノ救ハ上ノ横罽十二幅合テ惣十三也但横ノ長ハ箔ノ幅ニ周ヘシ乳ノ救十六十八又廿五但シ十五然ヘシト云云

○内幕箔本説ハ紐ノセシジヲ用テ也然尾近代ハ



○金段鈍子アヤ錦ヲ用畧儀也幅ノ救上ヘノ横罽  
一ツ是ニ家紋ヲ付ル也其下ノ竖罽十二合テ十  
三十リ横ノ長サハ絹ノ幅ニヨルヘシ乳罽ノ紺  
ト同シ紺ヲ同シ色ニ深救ハ十六付ヘシ藍ノ罽  
長サ三尺二寸也菊トダシ付ル所縫ハヅシ六寸  
也菊トチ皮藍皮一寸二分ニ切付ルナリ雄鑑抄  
愚按ニ横罽也帷ハ竖罽也帷ハクムヒラト訓ス以竖  
幅鳥レ之ト云

暖簾幕 或書ニ大形内幕ト同シ上ニ横罽ノナキ  
迄ノ替也紋ヲ付ハ上一尺計置ハシ

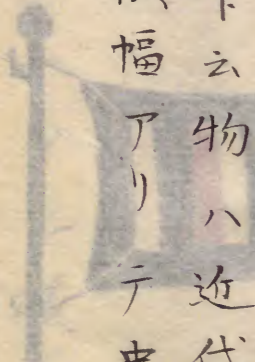
○罽連幕 紺ハ浅黄ニ深五幅也長廿五尺八寸末ヲ  
六十縫ハツレ黒草ニテ菊トチ可有草ノ長サ三

寸二分也家ノ紋ヲ可付救五ツ也乳ヲ付一八ツ  
兩ノ端ヲハナハラ付ル長五寸二ツニ折テ付ル所  
七分也子繩ノ長一丈五尺也私云昔氏ヨカラ又  
幕ヲ以是ヲ仕立ル時ハ但其時モ紋ヲハ其時ハ右可成  
雄鑑抄

見附考  
慢 唐韻云慢莫平唯慢也俗名但本朝式班慢讀音多知抄

○或書ニ和朝制スル所ノ慢幕ハ十二幅紋ヲ不出  
豎幅計ニシテ横罽ナレ縫ハツレ額額ナシ乳付  
又ハ縫合也

○愚按ニ今世ニ行ハル、慢幕ト云物ハ近代ノ俗  
ナリ班慢ト云モノハ上下ニ横幅アリテ中ハ二  
幅交ナルモノナリ





図ヲ見テ可考



帷フケリ

四聲字苑ニ云帷阿計波利和名大帳也和名抄

○愚按帷屋ト云ハ幕少廻シ天井ニモアケハリス

ル下也御即位之図ニ左近ノ帷右近ノ帷内辨ノ

帷見ヘタリ俗ニ天幕ト云モノ是也

幌ホウ

唐韻云幌胡廣反上声之幔也和名抄

○愚按門幌ト云テ今云暖簾ナリ

幕紋 ○武士ノ幕紋物ノ紋ト云ニ文ノ字ヲ用ル常ノ

下也アヤトヨムハアヤハ即モンナレハ子細ナ

ケレ氏委云ハ糸篇ノ紋ノ字ヲ用ヘシ物ノモン

ヲハ織出セルカ故ニト云々塩囊抄

太幕 ○兵衛佐ヲ相具シ下總国府ニ入奉テ由々敷ミナシ奉

ル胤経申ケルハ爰ニ大幕百帖ハカリ引散シ白

旗六七流打立候ベシ盛衰記千葉

幔幕 ○屋形共ヲ指上ケテ閑ニ幔幕引テ居タリナトス

ル程ニ東国廣ケレバニヤ源氏ノ勢イヤクニ付

テ勢モノ恐シ同記平氏清

見附考

長刀 龜次ガ長刀ノ先シキリニアガル様ニ見ユ



此程ニ亀次カ頭昌キナカラ鬼武カ長刀先掛テ落ス

○渡邊ノ橋ノ供養有盛遠鉾村鉾ノ直衝ニ黒糸威

ノ暖巻ニ袖付テ折鳥帽子係ニカケ銀ノ蛭巻ニ

筋通ノ巻タル長刀左ノ服ニ狹ニ盛衰記文

○夜討ニハ太刀ヨリ柄長物ヨカルヘシトテ小長

カヲ給フ是ハ故左馬頭義朝ノ秘蔵ノ物也銀ノ

小蛭巻ニ目貫ニ螺ヲ透テ義朝身不放持多盛衰記

○熊手薙鎌手針長刀ヲ以テ馬ヲモ人ヲモキラフ

コトナシ盛衰記

○能登守教経ハ打物莖短カニ取トモハラサレハ

ナイデハマハリ給フ平家物語長

○野木與一兵衛入道頼玄四尺三寸ノイカ物作り

○太刀佩テ柄モ五尺身モ五尺備前長刀右ノ服ニカイコ太平記

○鍛冶譜ニ濃列多藝志津鍛治志津三郎兼氏未相

列為正宗弟子能作長刀稱之志津象

○按ニ源義経朝臣ノ妾靜御前ノ持シ長刀ノ象成

故ニシツカ象ト云由ハ非ニテ志津象也

○水曾義仲ノ三代相傳トテ三ツノ室有第一ニハ

リウ王ツクリノ長刀第一ニタモオドシト云太

カ弟三サヤマキ十郎ニ引レタリ曾我

○金武ハカマウノ剛ノ者打カニテハ叶ハスシテ

鞘ニサシ小長刀ヲ莖短ニ取寄合サシトシケル盛衰記

○長刀ヲ持マクリケルカ峯ハ編水子ノ如ク切ラ

シテ又ハ銘ノマフニソ折タリケリ太平記



○因幡堅者金村トテ三搭各譽ノ惡僧備前長刀ノ

シノギカカリニ菖蒲形成ヲ服ニ狹之異本太平記 太平

見附考

鎗 国字 鎗ニ作ル

○三方ノ土矢間ヨリ鎗長カヲ差出シテ散々ニ突

ケルヲ巨利新九衛門十六迫ゾ奪テソ拾タリ太平記三井寺信戰

○塩屋伊勢守ハ餘リニ深ク長追シテ馬箠三筋立

鎗ニテ二ツツカレケレ太平記紀州

○阿間ノ了願ト名乗唐綾威ノ鎧ニ小太刀帶テ柄

ノ長一丈計ニ見ヘタル鎧ヲ馬ノ平頭引副太平記住吉倉戰

○鑄ニ金ヲ入タル鎧参考太平記毛利家北条

槍 ○天智天皇長槍ヲ持給日本紀槍一百八十一竿鎌槍

○滑良兵庫ト覺ユルソアマス三代実録元慶五年ノ余下ニ十兵共長具是ニテ

差合太刀持後へ立廻ルヲ切ト申ケレハ五人前

ヨリスキ間無ク鎗長カヲ支ツ太刀後へ走奇テ

臆病金ノハツレヲ兩足掛テソ切タリケル明德記

○敏達天皇ノ後胤和田賢秀ハ楠ノ一族ニノ比類

ナキ勇士也軍学ニ達シ度々高名ヲ顕ス曆忘年

中テホコ手銚ヲ中ヨリ鑢ヲエ夫ニ始テ作り出ス是短

兵ヲ討ニ利アルトノ儀也賢秀鎗ニテ大ニ軍利

ヲ得タリ其後楠正儀京軍ノ時鎗ヲ用敵ヲ討交

ヲビタ、シ是ヨリ諸家ニナラヒテ長ク持ヘツ

○不ニ武道ノ宝具トナレリ雜拾遺



石戦槍

○或書ニ槌ノ号久シ三糸宗近カ作レル石戦槍百

本形ナ本形アリ室町家ヨリ専ラ槍ヲ用ヒテ古

ノ弓矢ニカヘタリ管鑢ハ手ホウ左馬助ト云者

ニ始ル一記伊藤紀伊守ニ起ル氏云古今名畫ニ

近江国住人天九郎俊長ト云鍛冶槍ヲ作ルト上

手ナリ近文ノ比ノ人トク

○予ガ三糸狐鍛冶宗近石戦鑢ト云モノヲ見シニ

目貫穴ナクシテ忠ノ先ヲマゲテ目貫トス是ヲ

センマイト云ヨシ語リキ又鑢ニシホクビト

云所アリビラモクツカフ人ノ傳ニ塩ト云指ニ引

ト云儀也ト云左ニハアラス琵琶ニモシホクビ

ト云所ナリ鹿頭ト書ナリ

○河原兄弟二人カ首ヲ手鉾ニ貫城戸ノ上ニ昇リ

高ク捧テ源氏ノ殿原是ヲ見ヨ平家物語

○愚按令ノ義解ニ矛ハ二丈ノ矛也稍ハ丈二尺ノ

矛也ト見ヘタリ三代実録ニ長槍ト云物是也

古ハ長槍ト云シヲ曆應ノ比享保十一年迄三百

敏達天皇ノ俊胤和田賢秀ト云者手鉾ノ中ヨリ

工夫シテ鑢ト名付ルヨシ雜行拾遺藤ニ見工鑢

字金ニ从遺ニコ、ニライテ長槍ヲ鑢ト名ヲ改

从我國ノ俗字也世ニハ上御門御宇應仁文明ノ比出来ト由

イヘトモ是ハ太平記ニ一丈計成鑢又毛利家北

条家南都天正寺等ニハ鑢ニ金入タル鑢ト見ヘ

レヲ鑢ノ始トハ云ニヤ夫ヨリ八十年已前明德







○多り以系 日記辭憲子 入道問答

○河原足者之の首を以海に投ぎ城戸の上り 盛衰記景高 景時入城

石弓

○陣干石那坂之上堀湟懸入逢隈河水於其中引柵 張石弓ヲ相待討手 東鑑

○越中越後界僅一騎斗通道也市降浄土ト云所

ニ逆茂木ヲ引テ宮崎左衛門堅メタリ上ノ山ニ ハ石弓張テ敵寄ハ弛シカケント用意シタリ 兼久記

○早尾坂ノ城へヨス此山ハ後ハ峯高クシテ下カ タク兼ハ谷嶮シテ上リ難キ道ニハ大木ヲ切テ

逆水ニテ引固ハ大石ヲ並テ石弓ヲハル面ヲ 向ヘキ巧ニアラス 盛衰記 堂衆軍

伴次郎備佐助兼ト云者アリキハナキツハモノナリ常ニ

軍ノ先ニタツ將軍是ヲ感じテ薄金ト云鎧ヲナン キセタリケル岸近ク責寄タリケルヲ石弓ヲハ

ヅシカケタリケルニ既ニアタリナレトシタリ ケルヲ首ヲ振テ身ヲ挽メタリケレハ曹ハカリ

○打落シニケリ曹落ケル時本鳥切レニケリ曹ハ 傾テ矢ニケリ薄金ノ甲ハ此時ウセタリ 奥羽軍 記

○神日本盤余彦天皇東征之時討伏陽貴首人歸化 之頃海部佩室臣奉射天皇天種子命以三角石弓

反玉ノ大羽矢射殺佩室臣討始於海部ノ姓 尾張風土 記ヲ引テ



神学類聚  
抄出ス

○高橋之其の兵百餘人痛く負ふるより歩たれ

兼て其の兵を討てしむるに先陣の事とて其の

以り太平記三角

○坂中一隊を其の首を切て其の張るるを

其の首を切て其の張るるを

其の首を切て其の張るるを

弩

善相公意見封事ニ云本朝ノ戎益強弩ヲ以テ神也トス其用タル逐歩ニ短也トイヘ凡守リ禦ニ長也古語ニ相傳テ云此器神功皇后奇巧妙思ヲ

メクラレテ製作シ玉フ故ニ大唐ニ弩有トイヘ

○凡弩予起テ教習謂兵士及征行不須科其弓箭謂兵士

凡軍團每一隊定強壯者二人分充手均分入番惣

○大形高所ニハ弩ヲ張柵ヲ搔早キ所ニハ堀ヲホ

○高キ山谷ニ一ノ細道アリ左右ノ山ノ上ニ弩ヲ

ク張リ立タリ備中記木曾

並テ天ニ耀キ地ヲ照セリ盛裏記熊

○高キ山谷ニ一ノ細道アリ左右ノ山ノ上ニ弩ヲ

ク張リ立タリ備中記木曾

並テ天ニ耀キ地ヲ照セリ盛裏記熊

○高キ山谷ニ一ノ細道アリ左右ノ山ノ上ニ弩ヲ

ク張リ立タリ備中記木曾

並テ天ニ耀キ地ヲ照セリ盛裏記熊

○高キ山谷ニ一ノ細道アリ左右ノ山ノ上ニ弩ヲ

ク張リ立タリ備中記木曾



火箭

欽明天皇十五年十二月新羅ノ叛ケルヲ征セラ

レシ時筑紫物部莫奇奈沙奇能大矢ヲ射テ其月

九日ノ酉時城ヲ焚テコレヲ板夕日本書記

○今井四郎<sup>藤原</sup>平兼平ノ中ニ火ヲ入テ法住寺殿ノ御

所ノ棟ニ射立タリ平家物語

○何クニ水アルヘシ氏見ヘヌニ火矢ヲ射レハ水

彈ニテ打消シ候坂合平記亦

鉄炮 龜山院御宇文永二乙丑大元ノ老皇帝兵舩

七万余艘筑紫ノ博多ニ押寄菊地大伴松浦黨出

向大元ノ軍中ヨリ鉄炮ヲ發ス此時先名ヲ知夕

リ八幡愚童訓太平記等ニ  
詳也但今ノ鳥銃ニ非ス

○後奈良院御宇天文十二年八月廿五日大隅國種

子嶋ノ西村ト云浦ニ異國人百余人計乗タル大

舩一艘未ル彼舩ノ長二人年良叔舎喜利忘多陀

孟太ト云ケル渠ガ舩ヨリ上リテ遊トテ岸ニ方

ナル小キ的ヲ立鉄ニテ作レル火器ノ二三尺斗

ナルヲ手ニノ薬ヲ以テ鉄之玉ヲ飛スル百度發

テ百度中ル嶋ノ主種子嶋時亮見ル終ニ頃テ其

伎ヲ学ヒ價ヲ惜マテ其害ニツ迄買得テ其火薬

方劑ヲハ郎等篠川小四郎ト云者シテ学セタリ

夫ヨリ日本國中流布セリ南浦文集

○享祿三年夏南蕃ノ高舶大明ノ人三官ト云シヲ







トモ是ヲ聞テアハレヨカラヌ名カトトサ、ヤ  
ケト入道不改大友家記

○愚按大國火矢大明傳未ノ畧言トゾ炮擡火矢大  
散火矢ナドノ畧品々有木筒ニテ打也明石大矢  
ハ赤石内蔵之助高基傳未トソ内海火矢鎌田火  
矢ナド云ハ棒火矢ニテ鉄羽ノ仕カケ替アリ田  
村火矢トハ芝夫ナリニ三百モ入テ長短ヲ入テ  
打出ス也一度發セハ千人矢先ト云々歟

楯

垣楯

在家ヲ壞テ垣楯ヲ擡爰テ暫ク防ギケレ

盛衰記

シキ楯

○持楯シキ楯太平記

○其日軍奉行上木九郎大夫六千餘人ニ幕轉バクリク楯擡

楯ヲモタセテ参考太平記

楯ニ三枚橋ニ渡サレトテ取聚テ弓ノ替弦ヲ以

テ築ニ組盛衰記

○天文廿一年壬子ニ信州カリヤハラノ城ヲ信玄  
攻取給フ時其利左衛門尉ヨリクキ奇口ニテ竹ヲタバ子  
持楯置城際ヘヨリ跡ヲクズシテハクリヨセニ  
仁耳利働キ諸子ニスグレテ此城ヲ攻落ス苴悉  
皆米倉丹後武畧也今度松山ニライテモ米倉丹  
後ヲ武田衆ノ諸人マ子竹計ニモ限ラズ杭柱迎  
カラケ集メ武田ノ諸勢是ヲ竹々バト各付甲陽  
○至州香津楯楯為詰日本書記







表

上幅一尺五寸五分



長二尺五寸

下幅一尺九寸

引敷

裏

表

裏

麁<sup>ニ</sup>洋<sup>カモ</sup>

ヘソ草黒ヌリ

崩黄段子又裏何ニテモ

上幅一尺六寸又一尺五寸五分

長二尺九寸

下幅一尺九寸三分

又一尺九寸



右此圖ハ雜色黒川及右衛門送之

見附考 ○敷皮ハ毛ノカタヲ百ト心得ヘシ引敷ハウラウ

チタル方ヲ方モテト云ヘシ三俵一統

○引敷ヲ敷ヘキ更毛ノ方ヲ止ニヒロケテ不可敷

アシカワヲウラヲヨクツクリウヲ折テ是ヲ

ニツニ折テ行チニテ持參スヘシ緒ノ付クル方

ヲ主人ノウシロヘナシテ敷ナリ 日記

○主人ノ引敷ヲ主人ニシカセ申更アラハ緒ノ付

タル方ヲ御丸へ毛先ヲ右へナシテ敷也座敷ニ

掛ル時ハ裏ノ方坐敷ノ表へ成テ敷掛ル時ハ裏

ノ方坐敷ノ表へ成テ緒ノ付所ヲ止ニ掛ヘシ或

ハサカシマ或ハ裏ヲモテ敷更ヲ忌也 日記

○熊皮ノ引敷無官ノ人ハ斟取スヘシ 日記

○生害スル時ノ引敷ノ更緒ノツキタル方ヲ前ニ

シテ毛先ヲウシロニシクナリ 同記

○公方様左折ノ御縁塗金襴ノ御肩衣小袴御篋子

御脱楯御脇當御丹波鎌御セツシキ虎皮御劔ハ

大食 鎌倉年中行更

見附考

敷皮 敷皮ハ毛ノ方ヲ表ト可心得 三俵一統

○敷皮ノ敷ヤウ軍陣ニテ床几ノ上ニ敷時ハクシ

カミヲ後ヘナシテ白毛ノ方ヲ前へ敷也 秘傳

○敷皮ノ更鹿ノ皮ヲ本トスル也長サ三尺二寸廣

サ二尺五寸ニ切ヘキ也裏ハ何成凡付ル也ヘリ







○袴ノク、リヲ高クユヒシヲウチテノカサヲキ  
セ奉ル赤木ノ柄ノ刀ニタミタル扇サシ義経記

○笠ト云物ハ顔ヲ能隠シテ人ニ悉ク物成カ故婦  
人ノ歩行ニハ身ヲハナタス具也市女ニ立女ノ  
キルヲ市女笠トナツク菅笠ハ近江国真野ノウ  
ラノ菅笠ヲ名産トス又根津国難波ノ浦ニモ菅  
笠ノ上手有ト云六帖ニ婦人養草

わきまのあはれをたのまはし海の小舟の笠をまよとす  
をてや別所をまよとす後隆うまにあふらるるに

○河津三郎出立秋野摺尽シタル間々ニヒキガキ  
シタルヒタ、レニマタラノムカハキタフヤカ  
ニハキナシ鶴ノモト白ニテ矧タルシラゴシラ

へノシ、矢筈高ニ負ナシ梅檀トウノ弓ノ真中  
取萌黄裏附タル竹笠コカラシニ吹ソラセ 曾我物誌

○御レウノ其日ノ御装束ニハラキノテウイノフ  
シマツノ風折シタル立烏帽子ニ狩衣ハ柳色大  
紋ノ指貫ニ熊皮ノ行騰シハウチカニ召連銭

葦毛成馬ノ五尺ニ余リタルニ白鞆ヲカセ厚總  
ノ鞆掛召レケル御劔役江戸太郎御笠役豊嶋新

○五郎御省役小山五郎御敷皮金子十郎 曾我物誌  
富七御侍

○十郎其日ノ装束ニハ萌黄白ノ裏打タル竹笠村  
千鳥ノ直垂夏毛ノ行騰タカウスヘウノ鹿天筈

○高ニ取テ付 曾我物誌  
○五郎其日ノ装束ニハ薄江ニテ裏打タルヒマウ



○モシノ竹笠眉深ニ着テ増識

○祐経キレ鈔ニテ裏打タル浮紋ノ竹笠日記

○檜笠源平盛衰記

○馬元ナキ次刀脛巾ニ編笠ヲ着腰刀盛衰記太刀カヅキ

○女房装束ニ出立トテ市女笠ヲ召ケル平家物語

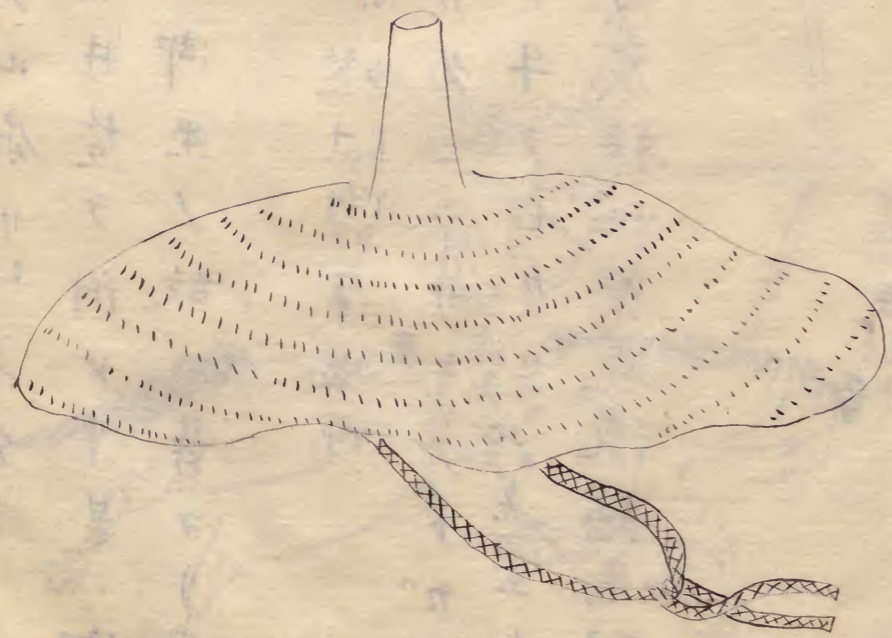
○將軍家下向伊豆駿河兩國狩倉給被召具教百騎而被定内外勢子不レ帶弓箭竹笠行騰着鞆東鑑

平家○黒深ノ衣ニツホレ笠着テ盛衰記官人々被討

○菅笠上菅櫛榔 此笠

○御即位調度之图中ニ出

○白抄出ノ笠ヲキテ盛衰記巴関東下向





○袴ノク、ソ高クユヒ白ウテデノ笠ヲキセ奉ル  
 ○赤木ノ柄ノカニダミタル扇サレ義経記  
 ○頼高ハ旗ノ横紙ニアマ井笠ヲ附タリ是ハ御眷  
 属御靈影向有テ蟬口ニ御坐ノ故ニ昔ヨリ當家  
 ノ庭訓ナリ 梅北論  
 ○市女笠クツホリウヅクノ笠ナリ藻塩艸  
 ○女ニクレナイノソメカタビラサキノトカリタ  
 ルキキヤウ笠ヲキマテテ牛ヲヒカセ 北条五代記  
 奥州宮城郡木下志波彦神社祭礼流鏑馬騎射  
 装束之図

檜笠也



カサノナリ  
 如此ヒノ木ヲ  
 ヘキアジロニ  
 アミタル笠也



女小袖

白羽ニ重縫ツメ

鹿皮

ムカハキ











テ作り筒ノナキ毛沓多見ヘタ見附考或云昔ハ如何  
云ヒケシ中古ヨリ筒ノアルヲ見附考按足袋ト云筒ナ  
キヲ毛沓ト俗ニハ近世云由也

○毛沓 此毛沓童著侯履ニ候 治美二年十月晦

○日ノ玉葉ニ曰毛沓有錦花銭及花帶等

○花ハ例ノ音ヲ假リ候靴ノ字ニ候就之所見先年少者

久世三位通夏為中将參賀茂ノ祭ノ使日以熊皮

造之不誤ニテモ哉候ケレ傍難無之候

○或古老抄曰布衣騎馬殊刷時毛沓用有帶如靴帶  
筋抄

○思々ノ鞞置唐笠ニ毛沓ハキ太平記雲  
客下車

○藤壹岐守恭綱野劔毛沓東鑑

○沓ハ熊ノ皮上品可成毛ノ方ヲ外ニシテ拵工ハ  
シ内ハ鞠ノクツニ同シニ後一統

見附考

接足袋モミタ 愚按近未熊皮ニテ作り筒ノアルモノ也

○其法礼家ニアル古ニ接足袋ト云物所見無之

近世ノ制カ或書ニ曰熊皮ニテ裏ハ金襴或綾ノ

トヲ付ル裏草厚滑板目草ニ重タルヘシ緒ハ

黒草幅六分程ニシテ長二尺斗也沓先五分襷蹟

ヲ寄スルヒダドメハ銀ニテ留メ菊金物アルハ

シ緒付ノ留リ銀ニテ猪ノ目ヲ付ル菊金物ト猪

目トノ間銀ニテ幅ニ今ノ筋金可有筒ノ長七寸

大概也ト云又拵スルニ裏ヲ厚滑板目草ニ重



ナニヨシハ心得ス裏ハ滑皮一重ナル故ニ鏡モ  
踏易<sup>ヤス</sup>カ<sup>ル</sup>ヘニ接烏帽子ノ例ニテ和カナルカ故  
ニ接足袋ノ名アル歟  
類貫<sup>ツクスキ</sup> 愚<sup>見付考</sup>按毛皮ヲ飯櫃ノ形ニ裁テ四方ニ穴ヲ穿<sup>ウチ</sup>  
テ緒ヲ付シモノナリ

○大將軍義經ハ熊皮ノ類貫ヲ履<sup>ハキ</sup>自余ハ牛皮ヲ履

盛衰記義  
ノ盛衰院參

○明春今日ノ装束一熊皮ノ尻鞆ヲサス同シ毛  
ノツラヌキヲゾ帯タリケル盛衰記

○景正手負タリトテノケサマニフシス同国ノ兵  
三浦平太郎為次ト云者アリ是モ聞ヘ高キ者也  
○連貫ハキナカラ景正カ顔ヲフマヘテ矢ヲ又カ

○シトス後三年  
物語

○宗行熊手ニ懸ラナカラ馬ヨリ飛下リ連貫ハキケリケル  
カ沙ニ足ヲ踏入ツ頭ヲ延テ曳タトソ引タリケル盛衰記

○筒井淨<sup>妙</sup>明秀弓ヲハカラリトナケエヒラモ解テ  
捨テケリツラヌキ暁テ蹴ニナリ橋ノ行櫛ヲサ  
ラサラト走リケリ橋台家物語

見附考

○馬上沓 愚按此沓ハ犬追物笠掛漆鍔馬ノ時履

沓也滑草ニテ作り黒ク塗ル沓先ニテヒタフト  
ル筒アリ外ノ方シハ華席ニテツクリ内ノ方鞆  
頭ノアタル所ヲハ草ニテ作ル古キ沓ヲ京師ニ  
テ求シ也

○沓モ新敷ハスベリテワロシ少ト踏ナラシタル



○カ能ナリ古ハ沓ノ裏ヲ塗テ砂ヲ少フヒカケテ  
ハキタルト云リ 伊勢下鏡入 道宗昔筆記

沓ノ子 愚按沓ノ底ニ重ク鉸ヲ拵タルヲ沓ノ子  
ト云文章ニ人救ク重リタルヲ或ハ稻麻竹葺  
ノ如或ハ沓ノ子ヲ拵タルカトシト太平記所々  
見ヘタリ

○武士ノ申俵ニ御装束ヲ召新キ沓ニハ子細アル  
物ヲトテ紙ヲ疊テ敷カシハキテ縁ヲ歩テ正面  
ヨリハ東西向ニシテ座シケル盛裏記重衛 向南部被坊

襪ニタツ 説文云襪音未之字 足衣也和名抄

○鞞白地紫地等小文錦餉抄

○襪練貫束抄 束抄 襪錦下白生帛同書

○二條三呂著スナヒ 白地鞞ラレ 而宗教朝臣難申云於此色  
者日未不用之如美元式者著有文燠草也東鑑

單皮履 唐令云諸鳥履並鳥色鳥重皮底履  
單皮底 鳥音思積反字亦作鞞和名與履同今按野  
人以此底皮為羊靴名曰羸鼻宜用此單皮ニ

○足利直冬ハ鎧弓征矢訖崎ニ持セラレ其身ハ黒  
皮腹巻ニ夾弓持テ草鞋ニ差單皮著参考本  
平記

乱緒ミダレ 賀茂競馬ニ今モ用  
○省督長十六人冠ノ老懸ニ單白クシタル薄紅ノ  
祀ニ白袴着シイナヒハバキニ乱緒ハキ本平  
記

鑠シ 是皮公方様左打ノ御縁塗金襴ノ御肩衣小袴  
御籠手御腕楯御臍當御丹皮鑠御ヒツシキ虎皮

鑠シ 是皮公方様左打ノ御縁塗金襴ノ御肩衣小袴  
御籠手御腕楯御臍當御丹皮鑠御ヒツシキ虎皮

鑠シ 是皮公方様左打ノ御縁塗金襴ノ御肩衣小袴  
御籠手御腕楯御臍當御丹皮鑠御ヒツシキ虎皮







サケタリケル 義経記判  
官北国落

擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋 擗鞋

野宮定 基御答書

○御束帶 入御之間開御屏風西只藏人頭侯御襲

襦供御草鞋 天皇出御射場御青色御草鞋内

侍候御劔女房六人 此草鞋ノ草ノ字擗ノ

○絲鞋 辨色立成云絲鞋 之乃伊都今擗

○衛府丸鞆帶野劔尻鞆絲鞋 雲因取 麻鞋以麻為之

麻鞋 顏氏家訓云麻鞋一握 立成云麻鞋以麻為之

唐韻云 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟

藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟 藟

愚接近世ノ俗ニ草鞋ノ下へ或ハ牛皮或馬皮ヲ

敷テ瓜先ニテ折カヘシ是ヲ鼻返シト云物也古

老云急ニ臨ニテハ鼻紙ヲ帖ノ俣幾重ニモ折テ

木ニ浸テ鼻返トス荆杭ヲ徹スナシ

○尻切 愚按僧家ノ用ユル物ナリ

○西光ヲ召取テ大庭ニ引居タリ相国ハ素給ノ衣

ヲ着テ尻切ハキ長念珠 後子ニ取 源評盛

○尻切ナドニモ礼侯マシク候尻切ハ皆ノ代也皆

見付考 羊物草 愚按羊物草ハ近世俗ニ云足羊

○柳ノ衣物ニ同色ノ袴節卷ノ弓ニ猿皮靴鹿矢了

マタ指テ羊物草ヲ以ハキタリケル 盛衰記鴛

尾一石



○足半ニ礼ハ有マヅク候萬葉之

下下貞丈云草履ナリ○馬ヨリ飛下リ藁ノ下下ヲハキ

○馬ニハノラテ下下ヲハキ弓杖ヲツイテイク田源平盛衰記景

ノ森ノサカモギヲノボリコヘ辨認

○文覚目モ不懸詞モ不出佐殿ノ御座スル處ヲ黒盛衰記

脛カ、ゲウハゲハハキテ前へ後へ通り行盛衰記

鞆子 ケイシノツヤ、カナルカカハニ土ヌクツ枕草紙

○エツタリシケイシニア井草ニテ緒ヲタテツメハキニハクマ、ニ舞曲景清

裏無ウラナシ ○藺金剛イノレカウ ○藺履イノツ ○緒太ヲブ

○皆石トテ十八ニナル兒ノ有ケルガ思ケルハ五  
十人シテ引トモ勤カヌハ人ノ弱カ石ノ重キ歎  
覚束ナシトテウラナシト云物ハキテ庭ニ下リ  
夜中ニ人ニ知レヌ様ニテ此石ヲ引見レハ安々  
ト勤ケリ盛衰記金剛

○門主ハ長々ト蹴垂レタル長縮ノ御衣ニ檳榔ノ  
裏無ヲ被召太平記主上

○緒太 是格名ニ候上古統裏無候檳榔ヲ用ル  
観應二年四月四日ノ園大曆所見候今ハ燈心草  
ヲ編テ作り候野々宮定

○緒太江次第ニ或藺履或裏無ト云是也アナカチ  
晴ノ物ニアラ子ト令持之常ノナク束帯ノ時



ノ緒太ハ從者可<sub>レ</sub>有覺悟モノ也 装束要領

鞋 令義解

○脛巾一具鞋一兩

押鞋

○西宮記曰押鞋主上及僧家貴女之所用也

鼻廣押鞋

○鼻廣押鞋一向僧ノハキモノ歟順和名ニ高履ト

書注ニハ鼻高履ト云ヘリサレハ鼻高ト書ヘキ

ナメリハナノウヘニサレ出タル物アレハ高ノ

字ノ義モカナフベキラ世ノ人廣ノ字ニ書ナレ

タルハ非正字歟 塩囊抄

深沓 ○毛沓

○行寶ハ衣冠ニ卷纓シテ深沓ヲソハキタリケル  
佐々木判官廣綱白襖ニ毛沓ハキテ郎等世人ニ  
一色ノ鏡キセウチ取ケリエムシキ見物ニテソ侍  
ケル

靴

○靴本字作鞞時珍カ曰鞞皮履也所以鞞<sub>カ</sub>足<sub>ラ</sub>故字從<sub>二</sub>

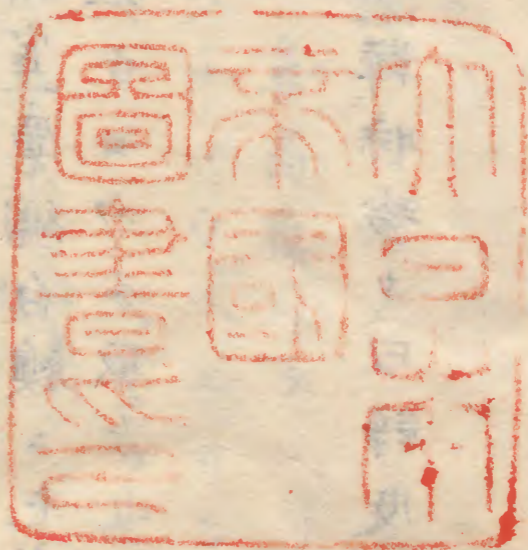
草鞞

淺履

○淺履往古無此名也蓋和名抄有木履乃此履子

装束要抄頭書





Faint vertical text in seal script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.



